

英米ジャーナル *The Eibei Journal*



(2019年度・米国UCLA英語研修)

明海大学 外国語学部 英米語学科

2019年度 学科活動報告

目 次

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉	1
我々はどう学ぶべきか	1
2019 年度英米ジャーナル刊行に寄せて	3
英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介	4
大津由紀雄ゼミ	4
河原伸一ゼミ	8
ジェシー・グラスゼミ	11
金子義隆ゼミ	14
川成美香ゼミ	18
菊地翔太ゼミ	22
熊谷学而ゼミ	24
小谷哲男ゼミ	28
小林裕子ゼミ	30
嶋田珠巳ゼミ	34
高田智子ゼミ	38
高野敬三ゼミ	42
津留崎毅ゼミ	46
内藤貴子ゼミ	50
ケイコ・ナカムラゼミ	54
原和也ゼミ	58
松井順子ゼミ	62
百瀬美帆ゼミ	64
卒業研究題目一覧	66
海外英語研修	72
CQU（オーストラリア）	72
UCLA（アメリカ）	77
カンタベリー・クライスト・チャーチ大学（イギリス）	91
アルバータ大学（カナダ）	100
GSM フィールドワーク参加報告	105
複言語・複文化教育センターの活動報告	110
第 12 回明海大学英语スピーチコンテスト報告	117
英米語学科同窓会 明英の活動報告	122
卒業生からの手紙	123
編集後記	125

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉

我々はどう学ぶべきか

～世界の不思議に目を向けよう～

英米語学科主任 小林 裕子

今や英米語学科の伝統ともなった英米ジャーナルが本年度もこのように見事に編纂され皆さんのお手元に届けられることは大変うれしいことです。英米語学科の教育と英米語学科学生の学びの軌跡を記録し続けるものとしての価値は非常に高いものがあります。

さて、私は毎回授業開始時にはお気に入りのクイズを出題しています。この場をお借りして 2019 年度の最高傑作選をお届けしたいと思います。真剣に考えてみてください。

【第一問】2020 年に日本人の女性の二人に一人がどうなるでしょうか。この問いに対して比較的多かった回答は「独身になる」でしたが、意外と「男になる」という回答も様々なクラスで出された答えでした。

【正解】50 歳以上になる。

首都圏で生活をしていると意外な感じがしますが、ローカルバスや列車に乗って周りを観察すると日本の深刻な高齢化が実感できます。2020 年に日本の女性の二人に一人が 50 歳以上になるという現実、我が国の少子高齢化はすでに重篤な状況であることを示しています。勘の良い方なら容易に想像できるはずですが、通常男女は 1 対 1 に近い確率で出生しますので高齢化が進んでいるのは女性だけではありません。



【第二問】世界中のミツバチが絶滅すると、その後、人類は何年で餓死するでしょうか。この問いに対して多かった答えは「100年?」「50年?」というものでした。

【答え】4年で人類は滅亡する。

この問題は食料供給にミツバチの果たす役割がいかに大きなものであるかを考える問題です。この問題の出題者はアインシュタインです。当時に比べ食料生産にミツバチが果たす役割が通減しているのは事実ですが、高齢化が進むと手がかかる人工授粉を担う人間が減るわけですから、ミツバチの減少問題は複合的な問題であることが分かります。そして、ミツバチが大幅に減少している原因が農薬の大量使用であることに目を向けるならば、人類が食料増産を目指し開発した農薬が食料供給の未来に影を落とすことになろうとは大変皮肉なことですね。

【第三問】一瞬の輝きに私たちが全神経を集中して願いをかける、流れ星に関する問題です。さて、流れ星の大きさはどのくらいあるでしょう。

この問いに関しては「え?大きさをなんてあるんですか」とか「100メートル」という答えがありました。

【答え】1ミリ程度。宇宙空間から地球へ飛んできた宇宙塵（うちゅうじん。宇宙人ではありません）が秒速数十キロメートルで大気へ突入する際に通過した領域が過熱されて発光する現象が流れ星であるということです。ちなみに地球には一日に二兆個ほどの「うちゅうじん」が降り注いでいるそうです。

【最後の問題です】上記の問題に共通の事柄とは何でしょうか。

この問いに対しては「共通なんてあるんですか」とか「ん〜」という反応が多かったです。

【ある答え】長い沈黙の後、A君が静かに手を挙げてくれました。（私の授業では挙手をして答えた場合にはその内容の完成度に応じてボランティアポイントが付与されます。ちなみに回答が全く的外れの場合でも、その積極性に鑑みボランティアポイントが1点付与されます。）A君の答えはおおよそ以下のようなものでした。「どの問題も冷静な統計分析や自然観察を通し、因果関係にも目を向けたならば答えが導き出せるものであった。我々は自然現象から目を背けていたり、見て見ぬふりをしている。仮説を立ててその正しさを証明するために知的な格闘をしたり、論証することから逃げている。一瞬では得られない答えを探し求めて知的な冒険をする人間らしい営みを忘れ去り、他者の脳裏に浮かんだ検証不十分な情報につながろうと必死に検索ボタンを押し続けている。」教室には知的な興奮が沸き上がりました。この後、教室では様々な意見が活発に出され、その日のボランティアポイントは総計158でした。このような授業が続く限り、英米語学科の卒業生がAIにとって代わられる日は決して来ないであろうと強く信じた一日でした。

2019 年度英米ジャーナル刊行に寄せて

副学長・外国語学部長 高野 敬三

学科活動報告である英米ジャーナルは、各先生が担当されている専門領域研究講座や卒業研究で学生の皆さんがゼミ担当の先生方の下で、どのような研究をしているのかがよく分かる報告書となっております。2 年生が第 3 学年からの専門領域研究講座を履修する際の貴重な参考資料ともなっております。そこでは、学生の語る内容をとおしてゼミの内容や担当教員の個性がよく表れています。今年度も英米語学科の各ゼミからメッセージが届いています。

英米ジャーナルには、こうしたゼミ紹介としての側面と英米語学科の学生が卒業までに体験する就職活動体験やボランティア・インターンシップなど様々な英米語学科の特色ある事業などが豊富に掲載されています。

卒業生の皆さんは、明海大学の英米語学科ではどのような学修をしたのか、どのような大学生活であったのか、社会に出てからも自分の軌跡を振り返ることのできる本報告書を是非、時折、目を通して学生時代を思い出してください。

在学生の皆さんは、時に本報告書を読んで、本学英米語学科を卒業するまでの自己の未来である「行く末」を考えてほしいと願っています。

2020 年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界各国から多くの外国人選手団や観光客が訪日することとなります。こうした中であって、2019 年度卒業生のみならず在学生は明海大学の英米語学科で学んだ学修成果を如何なく発揮することを期待します。

今後とも、英米語学科の教員は、学生第一に考え、より一層、英米語学科の教育を改善していきます。学生の皆さんも、是非、時代の変化に敏感に対応していただきたいと切に願っています。



英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介

大津由紀雄ゼミ

専門領域研究講座

3年 藤田 祐也

大津ゼミでは、主に『言語研究入門』という入門書の形態論や統語論という言語学の分野を学ぶことによって、言語現象における謎を解き明かしています。例えば、

(1) John will put the book on the table, and Bill will do so as well.

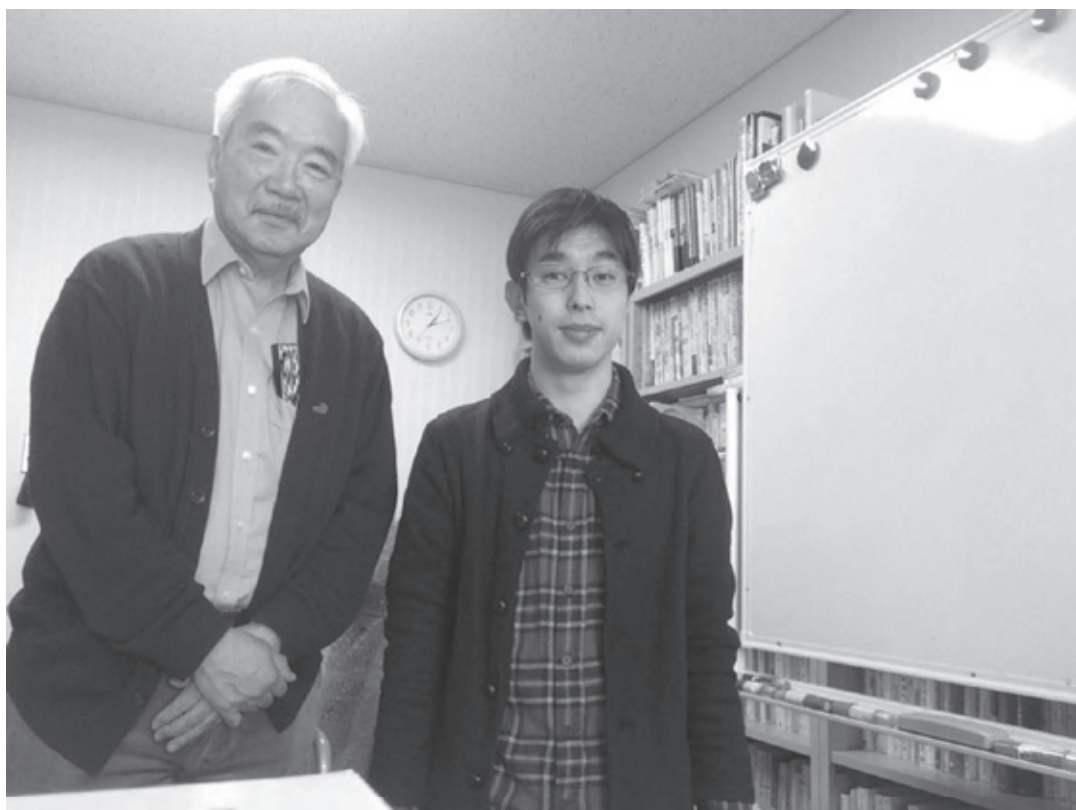
(2) * John will put the book on the table, and Bill will do so on the shelf.

なぜ(1)の文は容認されて、(2)の文は容認されないのだろうか？と疑問に思ったことはありませんか。答えはput the book on the tableで1つの中間的なまとまりを作っているためです。このように言語現象において「なぜそうなるのか？」と疑問に思える人こそ大津ゼミに向いていると思います。大津先生の講義の進め方としては、あらゆる言語現象を解き明かす過程で、「これはなぜだと思う？どうなると思う？」と問いかけます。そこでじっくり考え、どうしても答えが出せない場合には、大津先生が解説していただきます。

この「考える」という作業は大津先生が一番大事にされていることですが、私にとっても難しいと日々感じております。しかしこれからの社会で生きていく私達にとっては必要不可欠だと思います。なぜならば、これからの社会ではAI化が進むことによって、定型業務はどんどんAIに奪われ、これから我々がしていく仕事は「考えること」なしではできないからです。今まで予め答えのある物事に取り組み慣れていた私達にとって、答えのない問いに対して考え、自分なりの意見を持ち、発言するという事は、かなり抵抗あるように思えますが、常にこのような習慣を身につけることによって、私達にとって、これからの社会でより生きやすくなるのではないかと思います。我々が社会人になり、働くようになると「考えること」はとても重要な要素になってきますが、「考える力を育てる研修」は残念ながらやってくれません。しかし、大津ゼミではあらゆる英語の言語現象を解き明かす過程で「考える力」を身につけることができます。

このように大津ゼミでは、学ぶ内容は言語学ですが、これから生きていく上で必要なスキルを身につけることができます。答えのないものに対して「考えること」が好きな方や好奇心旺盛な方は大津ゼミに向いています。就活での面接や社会に出てから非常に役立つと思うので是非大津ゼミを考えてみてください。

(〔大津注〕残念なことです、明海大学における大津ゼミは2019年度で終了します。)



卒業研究

4年 山田 実紀

大津ゼミで卒業研究を受けている学生は8名です。大津ゼミの卒業研究で、私たち学生がどのように卒業論文または卒業レポートを仕上げたのかを紹介させていただきます。

4月、5月は「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」という資料を使って論文、レポートの基礎的な知識を身につけました。今まで10枚以上のレポートを作成したことのない私たちがいきなり卒業論文やレポートを書き始めても何から手を付けたら良いのか、どのような構成にしていけば良いのかが分からないので、この2ヶ月はとても重要な時間だったと思います。この授業と並行して学生1人1人がどんなことを研究したいのかを考え、大まかに「研究テーマ」、「研究テーマについてどこまで調べたいのか」、「研究テーマを調べる方法」の3点をまとめる作業も行っていました。卒業論文を書く基礎を教わった後は、7月の中間発表に向けて各自で研究をしていました。中間発表ではハンドアウトも作りました。毎週2人ずつ発表し、大津先生にコメントをもらいました。それで中間発表の土台を基にこれからどのように進めていけば良いかが分かったので、長期休みにもしっかりと個人個人で卒業論文・レポートの作成をすることができました。

夏休み明けは、個人個人で進めていく形だったのですが、大津先生は私たちが行き詰った時すぐに相談に乗ってくれるので、あまり不安なく進めていくことができました。私自身は12月ごろ全く卒業論文作成が進まなくなってしまい、「このテーマで果たして書きあげることができるのか」という不安にぶつかってしまいました。締め切りも近づいていて焦ってしまっていたこともあって、テーマを変えようかとも思っていた時があったのですが、大津先生に話を聞いていただいたり、アドバイスをいただいたりしたおかげで「このテーマでやっぱり書き上げよう」と思うことができました。大津先生から頂くお言葉は本当に偉大で、毎回私のモチベーションを上げてくれます。そのおかげもあって、その後1ヶ月以内で論文の草稿を完成させることができました。1度論文の草稿を修正してもらうのに提出した時も丁寧にコメントしてくださったので、すぐにその部分を修正することができました。

卒業研究を受けていた学生は全員卒業論文・レポートを提出することができました。



今年度は大津ゼミの卒業研究の中で集合写真を撮る機会がありませんでした。そのため2月8日に行われた大津先生の中締め講義の最後で学部代表として私がお花をお渡ししたので、その写真を掲載させていただきました。

河原伸一ゼミ

【3年生から】

1 考える力・伝える力が伸びるゼミ～就活にも役立つ

河原ゼミでは、今、世界で起きている重大な将来問題について議論します。先生と他のゼミ生との議論の中で、様々な価値観に触れることができます。テーマは難しそうなのですが、先生がストレスフリーな雰囲気を作ってくださり、一步踏み出し、自分の意見を言ってみたくなるゼミです。先生は元外交官なので、交渉における様々な思考フレームワークと相手に効果的に伝える方法を学べます。(西村 陸)

河原ゼミでの議論は、就活の面接の際にも役立ちます。問題を多角的に考える習慣を身に付けることができ、様々な意見や問題点を見つけることができ、ゼミに入る前よりも物事を柔軟に考えることができるようになった実感があります。自分1人で考えるのではなく、みんなでグループワークや意見交換を繰り返すので、自分では気づくことの出来なかった視点も得ることができます。(吉岡彩世)

河原ゼミでは、就活でも役立つ客観的な視点、グループの中で発言する積極性、想定外の質問に対してその場で答える頭の回転のはやさを養うことができました。実際、私が就活でグループディスカッションに参加した際に、初対面の人に対しても積極的に、様々な角度から自分の言葉でしっかりと自分の意見を述べることができました。河原先生の指導に感謝しています。(遠田実玖)

2 第一線で活躍しているビジネスパーソンとの意見交換～世界が広がる

先生の人脈ネットワークはすごいです。普段お会いすることのできない方々のお話を伺うことができ、貴重な経験ができます。様々な業界から現在活躍している方が来てくださり、自分が今まで知らなかった知識をたくさん学ぶことができ、就活に向け視野が広がっていく実感があります。(西村 陸)

インターンシップなどでは、なかなか質問が出来なかった場合でも、河原ゼミでは、ビジネスパーソンに気軽に質問をすることができます。(和田伸吾)

ゼミの先輩たちとの交流もあり、就活やお仕事の話聞いて、様々な業界について働くことの楽しさや大変さを学ぶことができました。(清水珠実)

就活や働くということに対して、まだ何も分からない私たちにとって、とても実りのあるお話を第一線のビジネスパーソンからうかがうことができます。(吉岡彩世)

今、世界で起きている時事問題や地域問題などについて、自分が気になっていることを聞くことができ、とても良い社会勉強だと思いました。先生の大学時代のゼミ同級生には、元大阪府警本部長もいらっしゃいました。(遠田実玖)

3 どのゼミを選ぼうか迷っている皆さんへ

河原ゼミでは、河原先生の頭脳と人脈をフルに活かした、大変有益な時間を過ごせます。就活に対して不安を感じている方には、特にオススメのゼミです。様々な社会問題について、多角的な観点から私たちをスキルアップさせてくれます。先生は、国際交渉経験が長く、ゼミはユーモアに溢れ、何でも話せる雰囲気、毎週のゼミの時間が楽しみになることは間違いないです。とても優しい先生で、就活を含め様々な相談に親身に乘ってくれます。（吉田周平）

私は、河原ゼミから学ぶことが多く自分の成長に繋がっています。（西村 陸）

卒論のテーマの選択が比較的自由なところが気に入り、河原ゼミを選びました。政治や経済のことに限らず、自分の好きなことを研究できます。（清水珠実）

疑問に思ったことや気になることはすぐに質問できる雰囲気で、お互いに高め合っていくことができるゼミです。（吉岡彩世）

【4年生から】

河原先生のゼミは、毎週先生が用意してくださる話題に対して意見を出し合い、理解を深めていく形式のゼミです。社会問題や経済問題などジャンルをあまり絞らず様々な問題を取り上げてくださり、幅広い知識を身に付けることができます。その多くは時事的な問題なので、就活に大変役立ちました。「就職後も役立つことを皆さんと共有したい」というのが以前、中央官庁に勤務していた先生の口癖で、私も河原ゼミで学んだことはきっと今後のビジネスで役に立つ内容だと確信しています。（長谷川裕晃）

卒論のテーマが決まると、授業では、ゼミ生のテーマに関係した先行研究やテーマに関する背景知識を紹介してくださるので、卒論執筆もスムーズに進めることができました。私は、「eスポーツを用いた地域活性化の魅力と課題」というテーマで卒論を執筆しました。先生からは、バランスのとれた、世界を変えることができる論文を執筆することの大切さを学ぶことができました。（長谷川裕晃）

河原ゼミでは、1週間に1冊、本を読み、みんなの前で発表しました。ミニ「ビブリオバトル」です。1週間に1冊読むのは、最初のうちは大変でしたが、徐々に慣れていきました。読書を習慣化できました。しかも、みんなの前で発表することで度胸がつけました。そのおかげで元々人前では緊張してしまう私が以前よりもはっきりと人前で発言できるようになりました。（三浦江梨花）

3年の後学期からは、就活でみんながピリピリしている中、河原先生はいつも優しい笑顔を絶やさず、ゼミではリラックス、リフレッシュできました。授業では、就活に役立つ様々な思考フレームワークや戦略を指導してくださり、自己PRも添削していただいたので本当に助かりました。(三浦江梨花)



ジェシー・グラスゼミ

専門領域研究講座

3年 余 陽陽

ジェシー先生のゼミに参加できて、とてもラッキーだったと思います。ジェシーゼミで、私はいつも楽しく勉強することができました。私は先生のいろいろなファンタジーの話を聞くのが大好きで、夜になるとその話を夢に見るほどです。1年間の楽しい授業時間は本当に短く感じます。あっという間に終わった気がします。

この一年間で、私は多くのことを勉強しました。英語に対する理解も更に深くなりました。ジェシーゼミで、私が学んだ『ファウスト』と『ギルガメッシュ』のストーリーは、粘土板に書かれた古代バビロニアの英雄叙事詩のことです。そしてそれに登場する半神半人の王のことを指します。これらのストーリーを勉強してから、人生には予想できないことがたくさんあって、私たちの人生は、積極的に努力すれば、希望に満ちていることがわかりました。

ジェシーの母語は日本語ではないので、授業では日本語を使う機会がほとんどなく、いつも英語を理解する必要があります。私は英語が苦手ですが、できるだけ英語で話すように努力しました。この一年間の授業で経験できたことを一生忘れないで、これからの勉強に役立てたいと思います。

3年 ドー ティ マイ (DO THI MAI)

歴史と文学は人間の生活に不可欠です。歴史は人類の起源と人々が犯した過ちを教えてくれるので、私たちはそこから学び、経験を積んで再びそれが起こらないようにします。文学は人々にインスピレーションを与え、人生を生き生きと美しくするための動機付けを与えます。だから私はジェシー・グラス教授のゼミ（文学）を選びました。

彼のゼミから、私は『ファウスト』と『ギルガメッシュ』を通して西洋文学について多くを学びました。ギルガメッシュは、古代メソポタミア神話の主要な英雄であるウルクのシュメール都市国家の歴史的王であり、紀元前2千年紀の間にアッカド語で書かれた叙事詩であるギルガメッシュの叙事詩の主人公でした。彼は半神でした。すべての良いものが彼に属しており、花嫁に対する悪い習慣を除いて彼は良い王でした。しかし、人々はここに住んでおり、特に花嫁は彼の悪い習慣を嫌うので、誰かが彼の世話をしてくれるように、大きな神に祈ります。大きな神がエンキドゥを作りました。初めて会ったとき、彼らは多くの戦いをしましたが、その後、彼らは平等で、友達以上の仲になりました。別の戦争で、エンキドゥは天の雄牛に殺されました。ギルガメッシュはエンキドゥの死後非常に悲惨な

状態になり、エンキドゥを復活させたいと思いましたが、長年の悲惨さを通して、彼は何をしてもエンキドゥを復活させることができず、「彼の家族と彼の現在の生活が最も重要なことである」という、バーで出会った女性のアドバイスを思い出します。この物語を通して、私は人々が通常、役に立たないものに時間と健康を浪費していることを実感しました。

もう一つの物語『ファウスト』は、歴史的なヨハン・ゲオルク・ファウストに基づいた古典的なドイツの伝説の主人公の話です。この物語では、主人公は非常に成功していますが人生に不満を抱えています。そのため彼は十字路で悪魔と協定を結び、自分の魂を、無限の知識と世俗的な喜びに交換します。悪魔は彼が望むすべてのものを彼に与えますが、期間が終わると、悪魔は彼を地獄に送ります。この物語は、悪魔への過度の渴望や依存が、自分自身に悲劇的な終わりをもたらすことを教えてくれます。ここでいう「悪魔」は、私たちの人生における魅力的なもののことです。したがって、甘い言葉や誘惑に魅了されないように、常に注意を払う必要があります。

これらの2つのストーリーから得られるものに加えて、粘土の上で楔文字を書くことを学び、練習しました。また、先生は英語のリスニングとライティングのスキルを向上させてくださいました。先生はいつも熱心に指導してくださいます。先生が私たちのためにしてくださったことに感謝します。このゼミでは、幸せで有意義な時間を持つことができ、たくさんの良い思い出ができました。

3年 内海 知広

私はジェシー先生のゼミに参加して、古代文学についての知識が深まり、とても嬉しく感じています。ジェシー先生のゼミでは、ギルガメッシュ叙事詩に関する事、古代の人が書いていた文字の疑似体験、ファウストやエレファス・リーバイなどの文献を読みました。これらの活動で最も印象に残っているのが、ギルガメッシュ叙事詩関係のものです。特に、先生が話していた、ギルガメッシュのストーリーです。ギルガメッシュとは、人物の名前です。このストーリーには、あるメッセージが含まれています。その事が私に当てはまったため、共感しました。それは、無い物ねだりをするよりも、現実世界で自分ができることをするのが大切である、というものです。これは、私が感じとったもので、ストーリーの中のある女性の言葉が元になっています。その女性は、話の中で「家族や周りの人達を幸せにすることが、あなた(ギルガメッシュ)にとって一番大切だ」と言いました。その言葉を聞いた私は、ふと自分のことを振り返りました。すると、この女性の言葉は私にも当てはまり、今でも私はそうしたいと思っています。これが、先生のゼミで一番良かったと感じた私のエピソードです。



卒業研究題目一覽

The Faust Theme in American Blues Music

BUI PHAM DUY SON

Supernatural Stories from Medieval Chinese Collections of Odd Events

張 蘭蘭

金子義隆ゼミ

専門領域研究講座

3年 青木美優

私は英語でのコミュニケーション能力を向上させたいと思い、このゼミに入りました。ゼミでは主に、英語でディスカッションやディベートをする事が多いです。1年間のゼミを通して、英語力の向上はもちろん、課題に対して考える能力、人に伝える能力も培うことができました。

3年 池谷祐輝

このゼミでは英語力を向上させることができます。主に教材を使つての授業がメインですが、アウトプットを目的としたディベートやペアワークなどの内容もあり、スピーキング力やリスニング力をのばせます。また英検の問題を使つてのライティング力やリーディング力の向上もあります。

3年 磯貝大地

「英語教育学研究」を主なゼミ内容として、英語表現力を高めるためにアウトプットすることを重視しています。具体的にはディベートを行ったり、英検準1級レベルなどの少々難易度が高い文の翻訳(日本語を英語に)などを行っています。最初の方はわからない単語・語彙だらけだった私が、日々のゼミや自主学習で英語のアウトプットを行ってきたことで英検2級の取得、TOEICのスコアアップに繋がりました。

3年 岩崎力丸

ゼミでは英検準一級レベルの単語や文の勉強、英語でのディベート、そして英語を使って何かアイデアをとにかくアウトプットしていくことを多くやっています。一年経過した今、以前と比べて少し頭に浮かんでくる単語も増え、文法や組み立てでもできるようになっています。また、金子ゼミでは普段の当たり前のことを当たり前に行える人になること、周りへの感謝を忘れないこと、人としての常識を徹底しています。英語力だけでなく人間力も間違いなく上がります。

3年 木村葉月

ゼミでは1年、2年で培ってきた英語力をアウトプットする授業が特徴です。また一般的な授業とは違い少人数なため金子先生との距離感が近いためとても学びやすい環境でもあります。まだゼミをどうしようか迷っている方はぜひ来てみてはいかがでしょうか！

3年 齋藤愛真音

このゼミでは、グループになり英語でディスカッションを行ったり、教科書や資料を用い語彙や熟語を学びます。内容としては、英検から引用しているものも多くあるので英検対策をすることも可能です。より英語運用能力を身につけたいと考えている方におすすめのゼミです。クラスも皆、和気あいあいとしており、毎回とても良い雰囲気で行っています。

3年 時田 亘

私たち金子ゼミでは、writing と discussion を主として、少人数のクラスでゼミ活動を行なっています。Writing では、日本語の文章を聞いて、英語の文章に訳していく形を使い、持っている知識を活かして表現する力を身に付ける練習をしています。Discussion では、最近の事件や、起こった出来事、その他の日常的な話題について英語で話し合ったり、意見などを伝えあったりして、英語で表現する活動を楽しんでいます。

3年 成田 聖

自分がこのゼミに入った理由はとにかく英語を使う機会を増やそうと思ったからです。実際このゼミでは授業内で議題を出され、それについてディベートを行います。発想力と語彙力の引き出しも増えるし、自分の勉強したことをアウトプットできる場はとても貴重です。また単語の小テストやエッセイを書くことで文法力ももちろん鍛えることができるので英語力の向上は間違いありません。

3年 二戸 楽夢

私は 1 年間金子先生のゼミに参加して、人柄の良さを感じました。先生の人柄の良さが出た話し方、接し方で学生に寄り添って授業はもちろん日常生活での悩みも親身になって聞いてくださって、とても親切な先生です。先生のおかげで毎回和気あいあいとした雰囲気です。

3年 山下 智也

金子ゼミは英語のスキルを更に高めたい人にオススメ。英語の語彙力向上や実際にディスカッションなどを通して英語力を高めることができます。一見普通の授業みたいに思われますが通常の

クラスよりも人数は少ないのでゼミ生同士でのコミュニケーションも多く取れます。



卒業研究

4年 桑田 郁

金子ゼミでは、アクティブラーニングとは何かを考え、課題とその改善策を踏まえた模擬授業を行います。この模擬授業の準備として今年度の前期では、それぞれが教育実習で授業する教材やメッツで貸し出しされている教材を使用し、ディスカッションをさせる模擬授業をしました。後期では、アクティブラーニングについての文献を読み、文献発表を行いました。その後、各自のアクティブラーニングの定義、課題と改善策、授業にどう取り入れたかを含めた指導案を提出し、模擬授業を行います。また、夏休みに勝浦のセミナーハウスで他ゼミのメンバーも参加しての合宿や、クリスマスパーティーをして親睦を深めています。4年生の金子ゼミは4人しかおらず少ないですが、とても楽しくゼミの活動ができました。

4年 佐藤 光

金子ゼミでは教職課程を履修している学生が多く在籍しています。その為教育実習に向けた模擬授業をゼミ生同士で行い、実際に問題を解いたりお互いに指摘し合いお互いを高めることができました。教育実習前に指導案を確認してもらえるので書き方や授業の進め方など多くを学ぶことができました。教育実習中でも分からないことがあれば学校へ行き、先生に指導していただけるという安心があり、心の余裕も持ちながら実習を無事終わられました。夏休みにはゼミ合宿で勝浦のセミナーハウスへ行きました。海に入ったりテニスをしてゼミ生同士また先生との友好を深めました。1泊2日と短い間でしたがとても有意義な時間を過ごすことができました。クリスマス前のゼミの授業では映画を見たり、みんなでお菓子やケーキを持ち寄りクリスマスパーティーをしました。とても楽しく金子先生もユーモアがあり、質問にも丁寧に答えてくださるのでぜひ金子ゼミへ参加ください。

4年 佐藤 みゆき

金子ゼミでは教職に関する事柄について研究しています。このゼミの最終目標は、指導案を作成し50分間の模擬授業を行うことです。そのために、前期の授業では学習指導要領の重要なポイントについて学び、後期には模擬授業に向けての準備を行います。学習指導要領は内容が難しいですが、金子先生がわかりやすく解説をしてくれます。また、授業中に質問しやすい環境を作ってくれているので、わからないことがあればその場で解決することができます。後期の授業では、まず模擬授業を行うために必要な文献を調べました。その文献を参考に、自分なりのアクティブ・ラーニングを取り入れた指導案を作成しました。

模擬授業を終えた後は、金子先生とゼミ生でフィードバックを行い、指導案や授業の質を上げました。金子ゼミは、教職の道を目指している学生に向いていると思います。辛い時には先生を含めゼミ生同士で励まし合える良いゼミです。

4年 山下 茉穂

金子ゼミでは、教職に関する事柄について研究しています。3年生の時では発問について大切さなどを学び、発表活動もしました。4年生前期では、学習指導要領についてみんなでディスカッションをしたり学んだりしました。4年生後期では、アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行いました。課題なども大変なこともあるかもしれませんが、金子先生はいつでも質問に分かりやすく答えてくださるので課題なども進めやすいと思います。教職や英語に関して多く学べるいいゼミだと思います。また、ゼミ合宿もあり、勝浦のセミナーハウスでみんなでスポーツしたりバーベキューしたり花火したり勉強したり色々してとても楽しく和気あいあいとしたゼミです。あとは、金子ゼミではみんなが仲良く、コミュニケーションが多いので楽しくゼミ活動が行えます。私は金子ゼミを選んで、とても良かったと思っています。



川成美香ゼミ



卒業研究

4年 吉澤 美由紀

川成ゼミでは、「社会言語学」が研究テーマです。具体的には、言語の性差や年齢差、ことばによる丁寧表現、言語と社会階級の関連などを研究しています。「専門領域研究講座」では、社会言語学とは何かを学ぶことから始まります。授業では、論文や教科書を輪読します。内容をメンバーで分担し、各自でレジュメを作成してプレゼンテーションを行います。それから、先生からコメントをいただいたり、皆でディスカッションをしたりすることで、より知識が深まっていきます。レジュメの作成やプレゼンテーションをしながら学びが進行していくので、社会言語学を学ぶことのほかに、プレゼンテーションスキルや資料作成スキルも身につけることができます。とりわけ自身で教科書や論文を読み込み、要点をまとめ、レジュメを作成することで、より内容が頭に入ります。準備に時間がかかりますが、その分習得することが多くあります。先生やメンバーとの意見交換により、全員で知識が深まっていくのを実感します。

4年次「卒業研究」では、卒業論文を製作していきます。毎週の授業では、進捗状況を報告し、先生からアドバイスをいただきます。私は、3年次で明海大学の海外留学プログ

ラムで、カナダ・アルバータ州にあるアルバータ大学に留学をしました。3年次で留学に行ったため、「専門領域研究講座」と「卒業研究」を並行して取り組みました。貴重な留学を経験したので、卒業論文ではカナダ英語について研究しました。具体的には、カナダ英語の“eh”の機能や使い方を社会言語学的な分析により研究しました。カナダ英語の“eh”とは、カナダで使用されている談話標識です。“eh”には様々な機能が存在し、カナダ人のアイデンティティとしても認識されています。まず、先行研究の論文を読み込み、カナダ英語やカナダ英語の“eh”について知識を深めました。カナダ英語の“eh”についての論文は日本語ではあまり存在せず、英語での論文を読破するのに苦労しました。次に、明海大学 MMPEC のカナダ人の先生方3名に、アンケートへの協力をお願いしてパイロットスタディを行いました。その結果をもとに、本調査は、カナダで知り合った友人や先生方25名のカナダ人を対象に、Google Forms を利用してアンケート調査を行いました。本調査では貴重なデータを収集することができました。パイロットスタディと本調査のデータをもとに分析・考察を重ねていきました。記述回答のデータ分析には最も時間がかかりました。さらに、考察を書くことは私にとって非常に難しいことでしたが、川成先生のアドバイスのもと、考察を論述することも修得して、卒業論文を完成させることができました。

4年次の1年間で、社会言語学を学びながら並行して、テーマ設定から卒業論文完成までの道のりは、決して容易なものではありませんでした。初めての論文作成で、さらに時間が無いなか不安が多々ありましたが、川成先生はきめ細かい丁寧なご指導をしてくださりました。また、カナダ留学で得た知識と、友人や先生方の協力によるデータをもとに、完成させることができました。その結果、30枚以上の論文を書き上げることができました。この論文は、カナダ留学を経験した私にしか書けないものとなりました。

最後に、大学生活を振り返ると、3年次の留学が印象に残ります。留学で得た知識と経験をもとに卒業論文に取り組むことができ、4年間の大学生活の大きな締めくくりになりました。授業では社会言語学を学ぶと共に、プレゼンテーションスキルや MS Word などでの文書作成スキルを身につけられたことも、これから社会人になる私にとって大いに役立つことと思います。川成先生には親身になってご指導いただき卒業論文を完成することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。社会言語学に興味がある人、自分のスキルを高めたい人は、ぜひ川成先生のゼミで学んでみてください。



☆☆～川成より～☆☆ 今年度の川成ゼミは少人数となりましたが、そのぶん親しく
楽しく話し合い、私も充実した時を過ごすことができました ☆☆

川成ゼミでは、「社会言語学」について学んでいます。社会言語学は、地域による言語の違いや性差による言葉の違い、丁寧表現などを扱います。その中でも、私はゼミ論の研究テーマとして丁寧表現（ポライトネス）を選び、研究を行いました。まず始めに、私がポライトネスを研究しようと考えた理由は、小学生の頃から、人が日常的に使用する感謝表現に興味を持っていたからです。朝に、近所の方や落ち葉掃除などを行なってくださる近隣のボランティアの方からの「おはようございます」という声掛けに対して、声を掛けられた人（小学生などの場合は登校時、社会人の場合は出勤時）はどのような反応しているのか。あるいはコンビニエンスストアやスーパーマーケットまたは飲食店での会計後に、店員側が「ありがとうございます」と声をかけるに対して、お客側はどのような態度・行動を取っているのかなどが、私はとても気になっていました。私自身は、声をかけられたら、ことばを返すタイプだったので、ことばを返さない人に対して「なぜ、返事をしないのだろうか」などと疑問を持っていました。そのため、ゼミ論を機に研究を行い、同時に疑問を解決しようと考えました。

今回、ゼミ論では「コンビニエンスストアや飲食店などでの会計後のお客の態度・行動」を研究対象としました。この研究では、「店員の声掛けに対して、お客は、どのような対応をするのか」「ことばを返す場合、どのような表現を用いているのか」、また「外国人の場合はどのような対応をするのか」の3点を、私は意識して調査を行いました。また今回は録音や録画ではなく、直に見聞きし、データの収集を行ったため、店員やお客に不審がられないように注意しながら調査を行いました。調査結果としては、日本人は声掛けに対して、ことばを返す人が少なく、外国人に関しては、コンビニエンスストアや飲食店などを使用する人があまりいないが、店員の声掛けにことばを返す人が多く、それも外国語ではなく、日本語で「ありがとうございます」と返事をする人が多いという結果が出ました。データをより正確にするために何度か調査を行いました。どの調査でも似た結果となりました。このデータをポライトネス理論を用いて分析したことで、抱えていた長年の疑問を少し解消することもできました。今回、ゼミ論を完成させるという目標のもと、初めて研究をして、研究の面白さや奥深さを学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。この経験をもとに、4年次では卒業研究に取り組みたいと思います。

3年次での1年間を振り返ると、本当に学びの多い1年でした。川成ゼミの授業では毎週課題が提示され、それについてのプレゼンテーションを行う形式となっています。また、プレゼンテーションをする際に、レジュメを作成します。私自身、川成ゼミに入るまでは、プレゼンテーションを行ったことがなく、レジュメの作成の経験もありませんでした。



そのため、「どのように話せば良いのか、どのようにレジュメを作ればいいのか」が当初はわかりませんでした。また、私は部活動も行っており、帰宅が遅くなるが多かったので、始めは両立をするのがかなり大変で、期日までに仕上がらず、説明が不十分であったことが多々ありました。ですが、川成先生からアドバイスを頂いたり、同じ川成ゼミのゼミ生の方のプレゼンテーションを参考にしたりすることで少しずつ感覚をつかむことができ、いつしか完成度を意識するようになりました。昨年度までは理解できていなかったプレゼンテーションの取り組み方やレジュメの作り方等を、川成ゼミに入り、学び得ることができてとても有意義でした。

また、川成ゼミでは、レジュメ作成やプレゼンテーション等のスキルだけではなく、コミュニケーションの重要性も学ぶことができました。スマートフォンが普及し、スマートフォンを使っていない時でも会話のない空間、すなわち沈黙が続くことが増えていました。沈黙が続くことは心配を与えます。そして、誰かが話を展開しない限り、沈黙は続いてしまいます。しかし、川成ゼミでは、授業の合間にも様々な話題があがるため、沈黙が続く状態がほとんどありません。会話が続く環境は良い雰囲気を感じられるので、川成ゼミのコミュニケーションが取れている環境が、とても心地良く感じられました。私は、部活動で部長を務めており、コミュニケーションを取ることが重要視される立場なので、川成ゼミで学んだコミュニケーション術を活かしていきたいと思っています。

このように、川成ゼミは学べることがとても多いので、学びを深めたい方はぜひとも川成ゼミへの所属を志してみてもはいかがでしょうか。

菊地翔太ゼミ

専門領域研究講座

本ゼミでは、どんな些細なことに関してでも「なぜ？」と問うことを大切に、歴史的な視点から問題に立ち向かう術を身につけます。現代の視点からは解けない問題でも、過去に遡ってみると納得のいく答えが得られることがあります。英語史はまさしくそのようなエキサイティングな体験で満ち溢れた知の宝庫です。例えば、「現在時制で主語が三人称単数の時にだけ一般動詞の語尾に s がつくのはなぜだろうか (e.g. He plays soccer.)」、「debt や receipt など、綴りと発音が一致していない単語はなぜ存在するのだろうか」等の素朴な疑問に対する答えは、英語の歴史を紐解けば明らかになります。本ゼミでは、普段は平面的に見ている英語を、複合的視点から立体的に観察する能力を養います。



以下、ゼミ生からのコメントを掲載します。

3年 首藤 葉由

菊地ゼミでは、英語の教科書を使って、英語の誕生から現在までの歴史を詳しく学んでいます。英文を自力で和訳しながら授業を進めていくので、歴史を学ぶのはもちろんのこと、文法や難解な英文の訳し方も学ぶことができます。既に英語を話したり、書いたりすることが得意な人は、英語史を学ぶことで、英語学習者としてさらにレベルアップすることができると思います。先生はみんなが理解できるようになるまで徹底的に指導してくださいませ。少人数で和気あいあいとした雰囲気のゼミです。

3年 山口 果恋

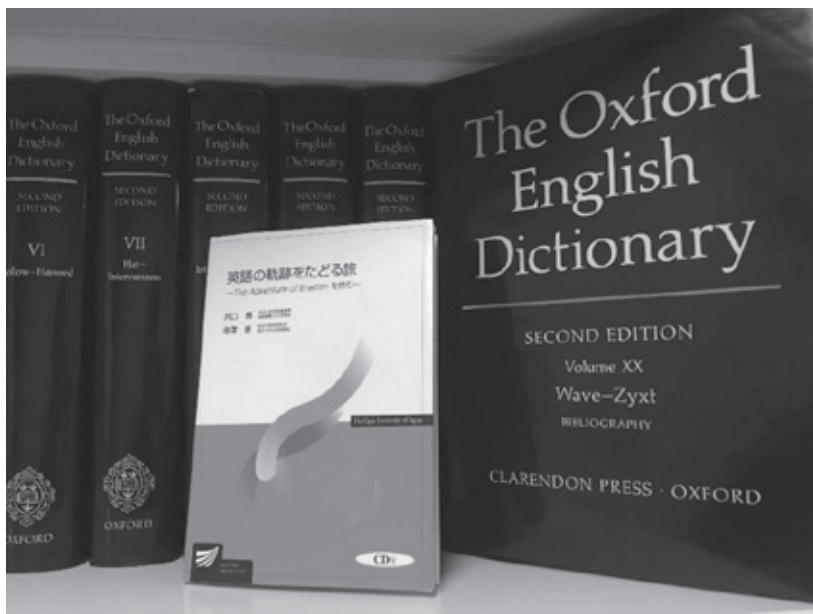
菊地ゼミでは、英語史について学んでいます。英語はもともと誰によってどこで話されていたのかから始まり、時代が進むにつれ英語がどのように変化し、どのような影響を与えたのかについて学びました。授業では、先生が分かりやすく解説してくださいませ。毎回新しい発見があり、一年を通して英語史に少しでも詳しくなれた気がします。私はこのゼミに所属して充実した一年間を過ごすことができました。英語をより深く理解したい方におすすめのゼミです。

3年 武井 勇樹

菊地ゼミでは英語の歴史について学んでいます。最初はとても難しく授業についていけるか不安でしたが、先生のわかりやすい解説のおかげで英語史を楽しく学ぶことができました。少人数のゼミということもあり、先生は一人一人に対して真剣に向き合ってくださいます。そのおかげでこの一年間で英語史に対する理解と関心を深めることができました。英語がどのように変化してきたか、どのように使われてきたかなどを学ぶことができるので、英語の成り立ちに強く興味を持っている人は菊地ゼミに入ることをお勧めします。

3年 陳ヶ尾 雅人

菊地ゼミでは一年をかけて古英語から現代英語への変遷について英語で勉強しています。授業では英語で書かれた教科書を読み解き、英文を訳しながら英語史を学びます。少人数制の授業ということもあり、教科書の内容に関する疑問だけでなく、英語の文法や単語に関する疑問についてもその場でわかりやすく説明していただけるので、英語力も同時に身につけることができます。この一年間で学習したことを踏まえ、来年度の卒業研究では、関係代名詞の使い方に関わる英米差について調査したいと考えています。



熊谷学而ゼミ

専門領域研究講座

3年 青野 咲

このゼミではイギリス英語とアメリカ英語の発音の違いを教材や映画を用いて深く学びました。また、自分の好きなテーマを研究するので3年生のうちから論文の書き方や研究の進め方を学ぶことができました。私は洋楽における母音の変化について研究をしたのですが、研究をしていく中で沢山の気づきがあったので更に追求していきたいと思います。

3年 坂入 雄一郎

日本語をはじめ、英語などの言語を音声の観点から学習できます。英語ではイギリス英語とアメリカ英語の発音の違いなど普段の学習ではあまり意識しないことを学べるので、さらに英語力の向上、理解が深まりました。映画や音楽を使って学習できるのでとても楽しく学べます。さらに本ゼミでは、アニメのキャラクターや商品名からどの音がどのような影響を与えるのかという音象徴の研究、映画や歌から音声の変化など音声学の研究ができます。また、違った視点から言語を学べ、身近なものから興味あることを研究できるので、ためになりやがりがあります。

3年 香村 柊紘

熊谷先生のゼミのテーマは音声学と音韻論です。音声学ではハリー・ポッターなどイギリス英語の作品を使用し、イギリス英語の聞こえ方や発音方法などを学びました。音韻論ではポケモンやドラクエなどに使われている名前や呪文から、音声学的な特徴などを学びました。また、ゼミ論があり、自由にテーマが決められ、先生がアドバイスなどをしてくれるので困ることはありません。このゼミでの私の研究テーマはアニメなどに登場する善キャラと悪キャラにおける名前の特徴を研究しました。自分が考えた通りの結果が出ると良い達成感を味わえます。

3年 平原 豪

日本で売られている赤ちゃん用オムツの名前には「パンパース」「マミーポコ」「ムーニー」といった [m, p] の音声が多く見られます。赤ちゃんが最初に発する言葉が「ママ、パパ」であることから、[m, p] は赤ちゃんを連想させるのではないかと考えられます。このように、ある特定の音声もたらすイメージ（音象徴）についても多く学びます。私は日本で売られている赤ちゃん用粉ミルクの名前にも [m, p] が多いことから、粉ミルクの名付けにおいて、[m, p] が多用されるかどうかを実験により検証しました。

3年 中村 亮介

熊谷先生のゼミでは、音声学と音韻論を学んでいます。音声学はイギリス英語の発音や地域ごとのアクセントなど、今まで触れてこなかったような英語を学びました。音韻論では、ポケモンの名付けにおける研究など、音や名前がどんなルールで決まっているのかを学びました。このゼミに入り、音に興味を持ち自分から様々な研究材料を探せるようになりました。音や発音に興味がある方は楽しいゼミだと思います。

3年 鈴木 翔

僕は高校生の時に語学研修で何度か海外に行きました。そこで言語、食べ物、文化、人柄、風景全てに魅了されました。そしてこの外国語学部がある明海大学に入り、英語だけでなく他の言語にも触れる機会が多くなりました。その中でも高校生から気になっていた、人種ごとに異なる英語の発音をもっと知りたいと思いこのゼミに入りました。僕が知りたい発音のことはもちろん、夢中になってプレイしていたポケモンの名付け、あの某芸能人らの名前に関する規則性と入り口がたくさんあります。好奇心があればいくらでも研究のしがいがあると思っています。その中でも僕はある音に着目して研究を進めています。とっても健康な「ねばねば」した「納豆」や「とろろ」、「ぬるぬる」している「なめこ」。これらのかぎかつこはただ単につけたわけではありません。もしこの英米ジャーナルの、熊谷ゼミのページの、僕のページを読んでいる方がいたらぜひ規則性を考えてみてください。

3年 渡辺 美帆

ゼミのテーマは音声学と音韻論です。音声学では英国映画を用いて英語の発音や方言、米語との違いを学びます。音韻論は「カンタム」より「ガンダム」の方が強そうというような音と印象との関係性について学びます。「can't」は米語では「キャント」、英語では「カーント」と発音されるのが定説ですが、曲中で「キャント」と発音されているのを耳にしてから、私は英国人アーティストの楽曲における米語への変化について研究しています。

ゼミ論題目一覧

青野咲	英語の楽曲における長音符での母音の変化
坂入雄一郎	ゆるキャラの名づけにおける子音に関する音象徴
香村柊紘	金色のガッシュに登場するキャラクターの名前の有声阻害音と両唇音の音象徴
平原豪	赤ちゃん用粉ミルクの名前と両唇音
中村亮介	サンリオキャラクターにおける音象徴
鈴木翔	共鳴音を含むオノマトペが与える影響
渡辺美帆	イギリス人アーティストの楽曲におけるアメリカ英語の特徴について



卒業研究

4年 中島 菜摘

私は「韓国人の男女の名前にみられる音象徴」をテーマとしてあげ、卒業論文を書きました。Perforsの英語母語話者を対象とした実験では、男性は、名前の語頭の母音に[i, e]が含まれるとより魅力的であり、女性は[a, o, u]が含まれるとより魅力的だと示しました。この結果をうけて、他の国でもそのことが当てはまるのだろうかと考え、検証しました。他にも熊谷ゼミでは映画ハリー・ポッターを使ってイギリスの音声方言(accents)について研究しました。洋画や洋楽が好きな方や各国の英語の方言や違いについて、音声学の目線に関心がある方にはおすすめのゼミです。

4年 代 雨凜

卒業研究では、音象徴について学びました。例えば、日本語では「バッグ(baggu)」を「バック(bakku)」、「ドッグ(doggu)」を「ドック(dokku)」とそれぞれ呼んでおり、無意識に濁音を無声化にしていることに気づきます。なぜそうなるのか、今まで気づかなかった音の法則を知るようになりました。卒業研究では、自分では気づかなかった点や矛盾している部分は周りの人達と指摘しあい、論文作成を一緒に取り組むことができました。私はミネラルウォーターにおける無声阻害音が持つ綺麗なイメージを検証しました。実験では刺激を作り、実験参加者のデータを集めて、綺麗な結果が出ていることにとってもやりがいを感じました。この卒業研究の授業を通じて他の音についてもまた研究をしたいと思いました。

4年 大澤 亜美

卒業研究では、音とイメージの関係について論文を書きました。音声学、音韻論を一から学び、興味のあるテーマをみつけ、データ収集を行いました。自分の立てた仮説を立証できたときの喜びはとても大きなものです。

4年 松橋 拓也

私は、3年生の時瀧田ゼミでしたが、いろいろあってゼミを変えなければいけない状態で、不安を抱えながら4年生になって熊谷学而先生のゼミに入りました。音象徴という今まで深く触れていなかった分野だったので、理解するのに結構苦労しました。しかし、学而先生は学生一人一人しっかり見てくれる教員で、なにも不便なく勉強できました。卒論では、ファイナルファンタジーの魔法における音象徴というタイトルで研究しました。先生に勧められて卒論を学会で発表したり、今までの自分じゃ考えられない経験をしたりと沢山させていただきました。熊谷学而先生ゼミに入って本当に良かったと心から思います。

4年 坂本 風花

私は音声学の中でも、音と意味には繋がりがああるという「音象徴」について特に興味があり卒業研究のテーマにしました。データの収集はとにかく大変でしたが、数字として結果が見えると達成感があります。誰も発見したことのないことを分析して、結果を出したい方にオススメのゼミです。

4年 丹治 紘

私は卒業論文でモンスターハンターのモンスターの名前と体長の間関係に見られる音象徴について検証しました。このゼミでは主に音象徴の観点から自分の興味のある分野へと繋げて研究ができるのがこのゼミの魅力だと思います。音象徴への関心がある方や自分の好きなことを紐付けで研究したいという形にはオススメのゼミです。

4年 吉武 和晃

熊谷ゼミでは、主に音象徴について研究してきました。音象徴に関する論文を読み、自分のテーマを見つけ最終的には国際学会で発表することもできました。学会で発表する機会なんて滅多にないと思うのでとても良い経験になりました。夏のゼミ合宿では先生、3、4年生でテーマを発表したり、BBQをしたりとても楽しい思い出になりました。

卒業研究題目一覧

中島菜摘	韓国人の男女の名前に見られる母音の音象徴
代雨撞	ミネラルウォーターにおける無声阻害音が持つ綺麗なイメージの検証
大澤亜美	リキュールにおける共鳴音と甘みの音象徴
松橋拓也	ファイナルファンタジーの魔法における音象徴
坂本風花	MARVELにおける善悪の音象徴
丹治紘	モンスターハンターのモンスターの命名における音象徴
吉武和晃	デジモンの名前における音象徴の研究



小谷哲男ゼミ

専門領域研究講座

塩谷恵美 鈴木千幸 苫米地郁穂 三上伊緒莉

小谷ゼミでは、国際情勢や国際関係に関する幅広いテーマを題材として、理解を深めています。前期には、貧困、移民、関税、自由貿易や核兵器などについて学びました。その中でも、特にゼミ生の関心があるテーマを取り上げて、発表や討論を行って、調べる力や考える力、伝える力を高めています。このような専門的な知識を身に付けるだけでなく、国際的な時事問題の英文記事を読んだり、夏休みにTOEICの特訓を実施したりもしました。卒業論文に向けたレポートも、何度も添削して一人一人にフィードバックをしてもらうなど、丁寧な指導を受けています。

また、小谷ゼミでは、日本航空や川崎汽船での企業研修や、沖縄でのゼミ合宿など、課外授業を積極的に行うようにしています。

日本航空の企業研修では、まず、「JAL 工場見学～sky museum～」に参加し、飛行機の仕組み、JALの歴史などを勉強しました。また、飛行機の格納庫へも行き、実際のものを見ながら説明を聞きました。その後、JALの訓練施設に移動し、客室乗務員、グランドスタッフの方からそれぞれの職種について直接教えてもらいました。飛行機の緊急着陸をする際に使用する滑り台やボートを見たのは初めてだったので、大きさに驚きました。客室乗務員には保安要員としての大切な役割がある事も知ることができました。普段は見ることのできない部分を見ることができ、新しい視点で、日本航空を知ることができる、とても貴重な体験ができました。



3泊4日で行われた沖縄でのゼミ合宿では、航空自衛隊那覇基地や海軍豪跡など普段見ることのできない場所を見学しました。那覇基地では、はじめに座学で自衛隊基地に関する歴史を学びます。その後の見学では、戦闘機の操縦服を試着し、実際に乗せてもらいました。装備はとても重く、マスクまでつけると呼吸も難しく、24時間365日正体不明の飛行体をレーダーで感知したら、即スクランブル発進し、危険から日本を守る大変さを教えて頂きました。海軍壕跡で旧海軍砲台を見たときには、戦争の悲惨さを実際に感じる事ができました。見学の後には、実際に働いている方々と食事をしながら、お仕事の話を直接聞くことができました。ホテルでは、学期末に提出するレポートの発表もしました。

川崎汽船の見学では、品川のターミナルに実際に行きました。どんなコンテナが船に積まれているのか、コンテナを積み上げるためにどのような工夫がされているのかなど、船長さんには船での生活や苦勞、やりがいや今後の海運業界の課題などをお聞きしました。この見学を通して、海運業界を知ることができ、興味を持ちました。意外と知られているようで知られていない海運業界の魅力は、現場に行き、実際に働いている方々からお話を聞くからこそ知ることができたと思います。

就職活動を始める私達にとっては、とても貴重な体験となり今後活かせる機会となりました。



小林裕子ゼミ

専門領域研究講座

ニュースを通じて世界を知る

3年 杉原 慶哉

毎朝配られる朝刊や、なんとなくつけっぱなしな毎晩のニュース番組。

皆さんは颯爽と流れていく日々の中で意識して世の中の出来事を知り、考えた日はどの位あるでしょうか。今後、皆さんが社会に出ていく上で、世界情勢や時事問題は必要最低限の知識。それらを日常的に学び、理解を深めていくのが、この小林ゼミです。

「何か面白い話ある？」小林先生のこの一言から毎週の授業が始まります。ニュースを見て気になったことや身近に起きた話、世の中への不満など様々のことを、先生とゼミ生みんなで共有し、話し合います。時に話し合いは、熱を帯びて 90 分間丸々使うこともあります。みんなで世の中の事を理解する事ができ、ゼミ生の仲も深まる大切な時間です。また、緊張や堅さがほぐれ、万全の姿勢で授業に臨むことが出来ます。

授業内容は主に先生がプリントしてくださる英字新聞を使い、英文の翻訳と記事の内容理解をします。英語圏で読まれている英文の為、学校のテキストの様に甘くはなく、難しい英語が多く、ハイレベルな翻訳を求められます。つまり事もあります。そんな時は先生がヒントをくださるのでしっかり自分の力で翻訳をして理解する事ができます。しかし、基本的な単語や最低限の知識などがわからない場合はいつも天使の様な先生が鬼に変わってしまいます。鬼になった先生は想像できないほど恐ろしいので、日頃からニュースを見たり勉強をする習慣をつけておきましょう。また、この時にただ流し見をして起きている事実を知り、受け入れるだけではなく、なぜ起きているのか問題意識を持ち自分の意見や考えを明確にする事が大切になります。意見を持つという事は一朝一夕では身につける事が難しいと思いますが、小林ゼミに入ると誰しもが自然とできる様になるので安心してください。

さらには勉学だけではなく、人としての常識もしっかりと教えてくださります。例を一つ上げますと、「E X I L E キャンペーン」というものがあります。E X I L E キャンペーンとは、ドアを開閉する際に最後までドアノブを持ち、閉まる音がならない様にする事です。本当に小さな事ですが、大人になった時に他人に不快感を与えないマナーとして大事な事です。皆さんの周りにこの様な些細な事まで丁寧に教えてくださる方は、親御さん以外におりますでしょうか。先生はゼミ生の事を我が子の様に可愛がってくださり、優しく真っ直ぐに育ててくださいます。この歳になってから、面と向かって

優しい言葉や厳しい言葉を投げかけてくださる方は、そう多くはありません。

そして我々大学生にとって最も大きい壁となる就職活動も親身になって相談に乗って、進路について一緒に悩み、アドバイスをくださるので、まるで一緒に戦っているかの如く先生には支えてもらえます。

また、時には友達のようにプライベートな話を交えたり、先生の好きなLDH系の人達の話をしたり、中学生のように一緒に恋話をしたりと私たちに寄り添い常に私たちに気にかけてくださる先生を、私たちゼミ生は心の底から信頼しています。

社会に出る直前の大事な期間に人として大事なものをたくさん学び社会人として恥をかかない様に育つ事ができる、それが小林ゼミだと思います。



皆さんは生活の中でニュースを見ますか？そのニュースを見てどんな意見をお持ちですか？小林ゼミではこのようなことを日常的に考え、世の中で起きていることについて理解を深めるゼミです。

授業は必ず「何か面白い話ある？」という小林先生の一言から必ず始まります。

先生や私たちゼミ生が共有したいと思った話題について話し合います。また日々の中で不満に思ったことについても話し合います。先生曰く、小林ゼミは世の中の不満を吐き出すことが出来るゼミとのことなので、大きい不満から小さい不満まで吐き出して全員で話し合うことができます。面白い話や不満が多いと90分全て話し合いで終わることもあります。

小林ゼミでは勉強もちゃんとします。内容は、基本的に先生がプリントしてくださった英字新聞の内容について皆で考え、理解を深めていくものです。新聞の内容は様々で3年次のものと比べると難しいです。しかし、書かれていることは日本ではまだ報道されていないものや海外の視点から見たものなど、ニュースを見るだけでは分からない興味深いものばかりです。分からない単語などは先生がヒントをくださり自ら理解できるように手助けをしてくださるので肩の力を抜いて授業に集中できます。しかし、基本的な単語（特にTOEICの超必須単語）や一般常識は身につけておく必要があります。分からなかった場合はいつも優しい先生から危険な雰囲気は漂い始め、愛のお言葉が飛んできてしまうので日常的に勉強をするようにしておきましょう。

4年生になると卒業研究の提出が課されます。これは卒業要件なので必ず提出しなければなりません。小林ゼミでのテーマは自由です。ですので、大学での授業や様々な経験を通して自分でテーマを見出さなければなりません。決定したテーマについて調べ自分の意見や今後の自身の在り方について述べます。卒業研究は難しく大変ですが、ゼミ生全員がそれぞれの価値観や関心事を反映した卒業研究を作成しています。

日頃からニュースや新聞、BBC アプリなどで、世界でどんなことが起きているか知っておくことが大事です。ただ見るだけではなく問題意識を持ちながら自分の意見や考えを持つことも大切です。

小林先生は授業以外にも、進路に関する悩みや個人的な相談にのってくださいます。就活中は何かと気にかけてくださり、アドバイスなどしてくださいます。学生に

寄り添い、愛のある接し方をしてくださるので私たちも心から信頼しています。

小林ゼミは自分の力で深く考えることの大切さ、社会に旅立つための力を一番身につけられるゼミだと思います。



嶋田珠巳ゼミ



専門領域研究講座

3年 福本智也

嶋田ゼミは自分が何に興味があり関心があるのかを見つけられるゼミです。そして自分の興味、関心を持ったことをゼミの仲間と共有し、深く話し合い、研究できます。嶋田先生は言語学の研究をしているので、言語に関して少しでも興味がある人はうってつけのゼミです。私は日本人でありながら知らない日本語や難しいと感じてしまう言葉を勉強したいと思いこのゼミに入りました。ゼミを通して色々な本を読み、少しずつではありますが、今まで知らなかった言葉や文の構成などを学ぶことができました。

前期には自分達が興味を持った本を探し、本の内容や気に入った部分などについて自分の考えを発表しました。発表に対して質問や意見を述べ自分達の考え方を高め合うことが出来ました。夏のゼミ合宿では4年生の先輩方と一緒に勉強しました。4年生の就活や卒業論文についての内容を聞けました。ちょうど3年の就活を始めるくらいの時期だったので勉強になりました。行きたい業種がはっきりしていて順調に就活が終わった先輩もいれば、少し苦労したと話してくれた先輩もいた為、色々な意見が聞けてとても為になりました。後期から私たちも卒論の内容を決めていくと言う話もあったので先輩方の卒論の内容も聞けて勉強になりました。夜は、みんなでバーベキューをしたり、カラオケや花火などをして、勉強だけでなく4年生と楽しく交流を持ってとても良い経験が出来ました。

議論型研究会は、3日間にわたって、4年生の先輩方を始め、教員の方々や、留学生の院生の研究の発表を聞けるというとても貴重な研究会でした。現代の若者言葉について発表されている先輩もいれば、地元の方言について研究しインタビューやアンケートをしている先輩もいました。お笑いの好きな先輩は漫才を書き起こして分析したものや、自分の好きな歌の歌詞についての研究しているものもあり、言語に関する事だけでも幅広い研究の発表を聞くことが出来ました。また留学生の院生の方々も日本語の複合語などを研究していて、私たち日本人が普段気に留めない所に興味を持っていて、とても良い発表を見られたと感じました。

1年を通して私は嶋田ゼミに入って本当に良かったと思います。自分の興味や関心に対して嶋田先生はとても応援してくださり、本や資料などを探し貸してくれてアドバイスをして下さいました。ゼミの仲間と共に意見を分かち合い、疑問や意見を出し合いながらそれぞれの答えを導いてきました。言語の興味を持っている人はもちろん、まだ何かに興味や関心が無い方でも嶋田ゼミで見つけていきませんか。

卒業研究

4年 大木由美

嶋田ゼミのゼミ生は、みんな個性的で自由でお互いに刺激しあって、2年間楽しい思い出ばかりでした。勿論楽しいことばかりではなく卒論を書き終えること、人前で発表をすることは、私にとって苦しい経験でした。最初はなかなかテーマが決まらず行き詰まっていました。そんな時、興味本位で心理言語学についての本を読み、その中で書かれていた子どもの言語習得の分野に興味



をもちました。私の姉には1歳の子供がいるので身近で研究できるため、とても良い機会だと思いました。私は本を読むのが苦手なのでこれまでずっと避けてきましたが、卒論を通して何冊か本を読みました。偉人の考え方や言葉に触れることで学べるのがたくさんあると気づき、本を読むことがどれだけ大切なことか学びました。この先、社会人になれば辛いことや何もかも辞めたくなるようなことがきっとあると思います。しかし、卒論や発表のように諦めずに頑張って乗り越えればどんなことでもできると実感しました。この貴重な経験を、自分が何かに行き詰まった時に活かしていきたいです。

4年 東田明莉

嶋田ゼミでは主にいろんな本を読み解き、考察する力を身につけさせてもらいました。3年生から自分が興味のある本のレジュメを作り、その本のどの部分が自分の心を動かしたのか話すことで、自分の気持ちがわかったり、人に聞いてもらうためにいろんな方向からもう一度考えることによって本からたくさんの情報を得ることができました。嶋田先生が信じて成長を見守ってくれているおかげで自分だけの卒業論文ができたし、期待に応えようと頑張ることができたと思います。そして嶋田ゼミの1大イベント夏の勝浦合宿はみんな必ず「明海大学にきてよかったあ」と言うぐらいとてつもなくエモくて楽しいです！

4年 橋本湧太郎

私は4年生の時から嶋田先生のゼミに参加しました。4年生になった時は卒論について自分で"やる"と言うよりは"やらされている"と言う感情が強く、あまり前向きに事を進めることができませんでした。しかし嶋田先生のゼミに入り先生や友達から卒論の話聞くことによって意欲が湧き、自分からどんな事をするか、どうすればより良いものになるかを日常的に考えて生活するように変化しました。そうすることによって自分が楽しく調査や研究のできる議題が見つかり、卒論を自らで"やる"の意識に変えることができるようになりました。そしてお互いで意見を言い合いその意見を真摯に受け止めることによって切磋琢磨し、自分だけの力ではできない卒論にできたと今では感じています。1年と言う長いようで短い期間でしたがこのゼミで学び、高め合うことができて良かったです。

4年 中井星葉

私は今まで文章を書くことが苦手でした。作文も無理やり文を繋げて提出してきました。ゼミに入って発表する機会が増え、そのたびにレジュメを作らなければいけなく自分の力を上げるしかない状況になっていました。書き方や、書く内容をきちんと整理して、何を伝えたいか、どうすれば伝わるか、自分なりに考えまとめ、発表し、先生に訂正してもらい少しずつ自分の文章力向上に繋がったと思います。また、毎年四年生の卒業論文についての発表会がありそれに参加して、今まで興味のなかったことや、自分では絶対に聞いたこと、読んだことのないことを聞けることができ、いい経験ができます。また自分の卒業論文についていろんな人から意見を聞くことができます。その意見を取り入れて卒業論文がどんどんいい物になっていっているなど感じることもできます。卒業論文は自分の興味のあることができ、楽しみながら卒業論文を書くことができ完成が楽しみです。また沢山の人とも交流できるので楽しいゼミだと思います！卒業まであと少し、納得のいく卒業論文が書ける気がしています。

4年 源田将大

卒業論文を書いて、こんなにも長い文を書くのは初めてだったので、とても大変に感じた。ただ文字数を稼げばいいというわけではなく、信憑性のある文献を見つけ、そこから論文に入れられものを見つけ出すことに苦労した。終わった時には今までにないくらいの達成感を感じることができた。卒業論文を書いたという今回の経験から、自分は根気強さという面で少し、成長できたと感じた。

4年 高木直

私が嶋田ゼミで学んだことは沢山あります。一番は卒論を通して、卒論の書き方や基礎的な事の他、自分の考えや伝えたい事をどのように表現するか、どのようにして全体をまとめるかなどを学びました。私が卒論の話題とした「若者言葉」は文献が中々見つからずかなり苦戦しました。卒論を書いていく上で、嶋田先生からは様々な厳しいご指摘を頂きました。書き終わってみると、全てが私の為のアドバイスであって、私自身成長出来たと実感しています。そしてその後の議論型研究会でも多くのアドバイスを頂きました。発表者として最初で最後の参加でしたが、去年聞き手として参加していた時とは全く違う視点

で楽しめたと思っています。この2年間を通して、自分の考えを文字に起こすことだったり、それをまとめ上げるスキルだったり、かなりスキルアップ出来たのではないかなと実感しています。4月からの社会人生活でも、これらのスキルは絶対に必要になってくると思います。大変ではありましたが嶋田ゼミでよかったなと思いました。

4年 尾関拓巳

僕は、嶋田ゼミでの卒論で苦労したことはゴールが見えないまま調査や研究をしていくことです。僕はゴールが見えないまま前に進むことが得意ではありませんでした。しかし、嶋田先生のアドバイスの1つに、構成やゴールが見えない時にはとにかく情報を集めておくことが大切だと聞きました。構成やゴールを先に頭で作るのではなく、パズルのピースを先に集めて後でパズルを完成させていくという形でした。その為、まずは情報を集めるにあたって研究内容に関わりそうな文献を探し、また、インタビューなどを行いました。これらのことをしたことによって、構成やゴールが見えていなくても徐々に作り上げることが出来ていました。また、参考文献に書いてあることや情報を僕は本当に書いてある通りなのか、という前提を置き自分のインタビューや調査をしていきました。卒論では、ゴールが見えなくても自ら動き、自ら考え、自分の意見を伝えるという大切さを知りました。

4年 田中純菜

私は卒業論文を書くことで、文章で自分を表現するという力を身につけることが出来ました。4年生になった頃、卒業論文をなんとかして完成させなくてはという気持ちがありましたが、どうやって書けばよいのか、何から始めればよいのか、分かりませんでした。しかし、分からないのであればその部分から調査すればいいのだということに気づきました。私は自分の地元の松本方言のことにについて書こうと考えていたので、地元に戻り、両親や祖母、親戚の方、友人にお願いをし、話を聞きました。結果、知りたい情報や知らなかった情報を聞き出すことが出来ました。例えば「りんごがボケる」（りんごがボソボソになる状態）や「ズクがない」（やる気が起きない）といった方言を使うのか、使わないのか、またその他にはどのような方言を聞いたり、使ったりしたことがあるのかです。その情報を、このような可能性があるかも、これはどういうことなのだろうと分析をしていきました。夏合宿と議論型研究会、日々の授業で、先生やみんなと向き合ううちに、卒業論文を書けるようになってきました。議論型研究会では、夏合宿からどのように完成に近づいたかが、私も含め、わかる発表会になったと思います。図書館へ行ったり、先生のところに通ううちに、完成に近づけることが出来ました。まだ完成には少し時間がかかると思うけど、嶋田先生やみんなとゼミの活動をすることが出来て、楽しかったです。言語に興味のある方、嶋田先生の授業を受けたい方は、ぜひ嶋田ゼミへ!!



高田智子ゼミ

専門領域研究講座

3年 林 龍之介

高田智子ゼミでは、言語の形式 (form)、意味 (meaning)、使い方 (use) を重点において英語学習を行ってきました。我々が中学・高校で受けた英語の授業では、言語の形式 (form)、意味 (meaning) に重点を置かれ、どのように、どの場面で使われるのかという使い方 (use) にあまり考えてこなかったと思います。このゼミでは使い方 (use) にもしっかりと重点を置いて学びます。私は助動詞や前置詞などが元来持っているイメージと、それが場面に応じてさまざまな機能を果たすことを勉強することができました。

授業はまず、一週間自宅でNHK『ラジオ英会話』を聞いて、新たに学んだことを発表することから始まりました。この番組は日常会話を扱っており、知っていそうで意外と知らない英文法の知識を、場面の中で学ぶことができます。次に、このゼミの中心である、映画を使った学習をします。わたしは *THE SOUND OF MUSIC* を研究対象にしました。登場人物の表情や声色にも注目しながら英語を聞くと、使われている単語固有のイメージや、それがその場面で意味することを、細やかに学ぶことができます。映画を使った学習ならば一人でもできそうですが、先生と学習することによって、疑問はすぐに尋ねることができます。先生はとても参考になる文献も持っていて、詳しく調べることができ、レポート作成時もたびたび助けられました。

年末には自分がその年に経験したことを、英語でベスト10リストにしました (次のページを参照)。これは高田智子ゼミ恒例の課題です。私は今までこのようなリストは作ったことがなかったため、新鮮な気持ちで取り組みました。ゼミで学んだ内容も活かすことができ、達成感がありました。

このゼミは、今まで一番熱心に楽しく取り組むことができた授業でした。高田先生のおかげで、ほかの授業では学ぶことができない内容をとことん掘り下げて勉強することができました。



MY BEST OF 2019

- 1) I watched the movie named "The Sound of Music" in the seminar. I learned some grammatical items in context. I was particularly surprised that "will" is used to command.
- 2) I made friends with Fujita Yuya this year. He is very smart and he teaches me a lot of things which I don't know.
- 3) I attended a high school reunion on the Kujukuri Beach in August. Unfortunately, it rained. So we went bowling instead.
- 4) During summer vacation, I participated in an internship program in Saitama.. It was so far away that I felt like traveling. But I was very happy to learn about group discussion and presentations.
- 5) I made some new friends through the internship program. Everyone is cheerful and very friendly. I hope to see them again.
- 6) I celebrated my birthday in December. I got a cushion and received congratulations from my friends. I also thought I shouldn't forget their birthdays.
- 7) I have been listening to a radio English conversation program since April. It is interesting to learn how to use synonyms. I want to keep listening to this radio program every week.
- 8) I participated in a training program for group interviews in December. I was able to say what I wanted to but the coach told me to speak more fluently. I think I need more practice.
- 9) I went to an Italian restaurant with my seminar teacher in December. We had a buffet lunch. We ate salad and pizza. Also, the pasta with dried *sakura* shrimp was very tasty with lots of tomato sauce. I enjoyed talking with my teacher.
- 10) I participated in the end-of-the-year party. We talked about what happened this year and wished everyone a very successful new year.

私の今年の卒業研究の授業を振り返ってみて確かに感じることは、学生の私と高田智子先生とのマンツーマンで、先生の格別な指導で楽しく勉強できたことです。私が常に興味を持ち、注目した1年間の授業のポイントは、去年の専門領域研究講座で学んだ内容に基づいて、中学校の英語の授業で文法をコミュニケーションを支えるものとして導入する方法でした。今年の卒業研究の授業で勉強した Larsen-Freeman による論文は、その内容が私にとっては非常に難解な文章でしたが、専門領域研究講座で学んだ第二言語習得論に関する一連の理論との関連性が深かったため、先生と一緒に勉強しながら、徐々に理解が進むようになったと思います。

特に、これから本格的に日本の中・高等学校の教育現場で教師としての役割を果たすことを目指している私にとっては、今年の卒業研究の授業で学んだ全ての理論と実践的知識が、将来私が行う授業展開と深く関連があります。専門領域研究講座、卒業研究の2年間の学びを実際に活用できるという確信が持てるほど、その内容の重要度が感じられる時間でした。最初は、「文法」という用語についてその定義から改めて考察し、その後は文法の骨組みを形成する要素と学習プロセス、指導プロセス、教室で実際に文法学習を導入するために要求される様々な要素などを勉強しました。

私が特によかったと思ったのは、実践家として活躍する先生方が、文法項目を実際にどのように導入して授業を進めたのかを授業ビデオを通して観察し、それに基づいて私が自分なりの指導案が作れるようになったという点です。率直に言いますと、私は今年まで Oral Introduction の基本的な概念とその手順についての理解さえ不足でありました。けれども高田智子先生と一緒に何回も授業ビデオを見ながら、ある文法項目を、それがコミュニケーションに活用できることを目標に導入するには、当該文法項目、学習者の現在の文法知識レベルなどについてどれだけの研究と準備が必要であるかを理解できるようになりました。それとともに、様々な文法項目について学習者がそれに初めて接することを前提に、理解に導くことがどれだけ難しい課題であるかがわかりました。授業ビデオを見ながら様々な先生方の授業導入と展開を書き取り、分析し、それを参考に私が実際に授業指導案を作成してみても、新出事項を理解させるためには多くの時間をかけ、綿密に計画しなければいけないことを切実に感じました。

私は指導案を書くために、まず、現在の日本の中学校で使われている検定教科書には該当文法項目がどのように説明されているかを研究しなければいけませんでした。そのように、中学校の教科書に掲載されている内容から綿密に検討していく過程を通して私が感じ

たのは、私が今まで比較的簡単な内容の文法項目だと知っていた項目も、この文法項目を全然知らない生徒に理解させるためには、私の方がその文法項目の形式、意味、どのような時に使うかについて確かな知識をそなえていないといけないという点、このような事実を踏まえて授業を行う前に教材研究を徹底的に行わなければいけないという点でした。

卒業研究の一年間で学んだ知識が、今後私の授業で十分生かされ、役に立てるようになると私は確信します。



高野敬三ゼミ



4年 有賀 瀬菜

高野先生ゼミのテーマは「これまでの教育とこれからの教育を考える」です。ゼミでやる内容は日本にどのように英語教育が始まり、昭和22年から現代までの学習指導要領を読んで学びます。自分たちの受けてきた教育とどう違うのか、これからどのように教育が進むべきなのかを先生も含めゼミ生で話し合います。基本的に先生の講義ではありません。自分たちが読んでまとめたものをみんなで発表します。同じもの読んでもまとめ方はみんなそれぞれ違うのでそこを見つけられるのもこのゼミの面白いところです。重要な点は先生が補足してくれます。3年生の専門領域研究講座、4年生の卒業研究の二年間ゼミを通して文章を読んで要点をまとめる力がつきました。内容は少し難しいところもありますが、教師を目指す人もそうでない人も自分たちが育ってきた環境やこれからの教育について考えられるので勉強になります。

先生がとても優しいです。人数は少ないですが、和気あいあいとしたアットホームな楽しいゼミです。

4年 狩谷 亜美

高野ゼミでは主に昭和からの学習指導要領を使って、英語教育がどのように変化してき

たのかを学びます。ゼミ生一人一人が同じ資料に目を通してプレゼンをしても、内容が被らず、自分が気付かなかった所や違う目線からの意見を共有できるのでとても楽しく、先生からも友達からもたくさん学ぶ事ができるゼミだと思います。そして4年では、それぞれが興味を持った観点から英語教育についての卒論を書きます。高野先生が一人ずつの内容や進み具合、アドバイスなどの話す時間を多く設けて下さり、とても丁寧に指導して下さいます。多くの授業で発表がある事でパワーポイントの作り方や人前でプレゼンをする力が身につきました。そして一番大事なのが、高野先生。学生をいつも一番に考えてくださる、とても素敵な先生です。私がゼミに入ったのは、内容よりも高野先生の所で学びたかったという理由が大きいです。資料の読み取り能力が付き、プレゼン能力も身につく、素敵な先生もいるという、まさに“ハッピーセット”なゼミです。

4年 初見 侑

私たちのゼミは、はっきり言って教職を履修している人にお勧めのゼミです。中でも、プレゼンテーション能力を付けたい人には、このゼミでは、毎授業プレゼンテーションをするので力が上がると思います。学生自身がプレゼンテーションをするので授業は楽しく、周りのプレゼンテーションも見ることによって他の学生のいい部分を自分に生かし、プレゼンテーションの力がぐんぐん上がっていきます。先生が講義をする授業というよりは、自分たちが調べ、学んできたことを、それぞれの視点で発表するので、とても楽しいです。

なぜ、教職を履修している学生にお勧めのゼミかという、このゼミでは1年かけて学習指導要領について触れていくからです。このゼミでは、これまでの教育についてとこれからの教育について、また学習指導要領の歴史について学ぶことができます。さらに、人前に立って話すということに慣れていくことができるゼミです。そんな力を付けたい方達にお勧めです。

4年 池田 義友

3年次の専門領域研究講座で、ゼミ生が学習指導要領の試案から次期学習指導要領を読み込んで、それぞれの視点でプレゼンテーションを行います。4年次では、昨年仕上げたゼミ論文を広げて、英語教育に関して自分の興味のあるものを題材として卒業論文を仕上げていきます。同じ題材でプレゼンテーションをしていた3年次とは異なり、自分の知らないことを他のゼミ生から知ることができる4年次では、良い刺激になります。高野ゼミでは、ほとんどの学生が教職課程を履修しているため、教育実習、就職活動などがあり、なかなか全員が揃うことがありませんでした。その分、パーティーをするなど、全員が集まった時の時間を大切にしていたと思います。高野ゼミでは、今までの英語教育そしてこれか

らの教育を学ぶだけでなく、毎回の授業がとても楽しく過ごせます。高野ゼミに入って、楽しくもあり、充実した時間を過ごしませんか？

4年 渡辺 幹太・ゼミ長

高野ゼミでの2年間では主に学習指導要領の変遷について学びます。ゼミ生の6人で様々な視点から学習指導要領を紐解いていき考察していきます。その中で特に国が求めている英語力についてと生徒たちの英語力の現状について追求しました。その結果自分の中で今後どのような教員を目指すべきなのか、またどのような授業を行っていくべきかが明確に見つけることができました。また、高野ゼミでは1年間ゼミ長を務めさせていただきました。この経験を活かし様々な場面で活躍していきたいです。

さらにこの高野ゼミでは教員になるために必要な力を総合的に身につけていくことができます。そして様々な価値観、多様性を身につけていくこともできます。教職課程を履修している方、これからの教育業界がどのような方向に進んでいくかなどに関心のある方、教育に関心のある方にはおすすめのゼミとなっています。

3年 小出 駿平

高野ゼミではこの1年、前学期に日本の英語教育、学習指導要領の変遷について、後学期では夏休みにまとめた英語教育大論争について詳しく、また学習指導要領の変遷について学びます。そして、毎授業パワーポイントにまとめ発表します。高野先生が丁寧に指導して下さるので、1年を通して、文を読む力、まとめる力や発表する力が身につきます。なにより英語教育の歴史について深く学べ、現代ではどういった英語教育が求められているのか、どう変わってきたのかが詳しくわかります。そしてこのゼミで知識として取り入れた事を、他の授業で使えたり、自分自身が授業を展開するためにもとても役立つ内容です。どのような教員になる事が理想なのか、そのためになにをやるべきなのかを考えさせられ、身につけられる、自分のためになる事が山ほど詰まっています。教育に興味のある人や、教職課程を履修している人は間違いなく自分の力になります。そして今後につながると思います。



津留崎毅ゼミ

専門領域研究講座

3年 ニフ ルブナ

今年度の津留崎ゼミのテーマは「人称代名詞と照応」で、特に「バック・ピーターズ文」と呼ばれる不思議な文の謎解きに取り組みました。前学期中は、特に、*The Cambridge Grammar of the English Language* の Chapter17 ‘Deixis and anaphora’ を拾い読みしながら、ダイクシスや照応表現と先行詞の関係など、バック・ピーターズ文の謎の解明の基礎となる現象について学びました。

授業の最初の頃は、先生が何をおっしゃっているのかも、自分たちが何をやっているのかもさっぱり分からない状態でしたが、先生の細かな説明により徐々に理解してきました。学生2人と先生、計3人のとても小さなゼミでしたが、逆に手厚く教えてもらえて良かったです。

夏休みには、鈴木孝夫著『ことばと文化』を読み、ブックレポートを提出する課題が出ました。これは言語と文化に関する入門書のようなもので、私たちにとっては読みやすい本でしたし、学期末に提出しなければならない「ゼミ論」を執筆するときの大きな助けにもなりました。

後学期の授業では、津留崎先生が作成されたハンドアウトや補足プリントなどをメインに、バック・ピーターズ文の謎解明に向けての考察を深めていきました。「同一指示」や「束縛照応」など、聞いたことのない専門用語が多く不安でしたが、先生が分かりやすく説明してくださいました。特に重要なところは、次の授業の最初に復習の時間をとって、何度も説明してくださいました。バック・ピーターズ文の現象については、大変難しいという印象でしたが、この一年で学んだことと照らし合わせていくと、不十分ではありますが、その概要はつかめたように思います。

津留崎ゼミでは、普段耳にしない言葉がたくさん出てきます。しかし、知っていることより知らないことを学ぶことはとても有意義な時間でした。改めて津留崎先生のゼミでよかったと思います。津留崎先生、一年間ありがとうございました。



津留崎ゼミ（専門領域研究講座）メンバー： 左から、坪田美奈子、津留崎毅、ニフ・ルブナ

卒業研究

4年 上田莉香子

今年度の津留崎ゼミ（卒業研究）の目標は、ことば（英語もしくは日本語）に関連するテーマを見つけ、リサーチを行ってデータを収集し、そのデータを客観的な視点で分析し、最終的に「卒業レポート」の形にまとめることでした。

卒業レポートを作成するにあたっては、田中典子著『はじめての論文:語用論的な視点で調査・研究する』をメインテキストとして使用しながら、津留崎先生のご指導で専門的な文献を読解する力、分析する力、パソコンソフトを効果的に使用する力、論理的な文書を作成する力等を身につけることに取り組みました。

私は、最初は何から進めていいかわかりませんでした。テーマを「キラキラネーム」に定めてからは、津留崎先生が参考にできる文献を教えてください、構成を一緒に考えてください、細かなアドバイスをしてくれたりしたので、特に12月以降はかなりスムーズに執筆を進めることができました。

卒業レポートを執筆する上で、私が特に苦労したことは、手元にある様々な情報のどこを参考にするか、分析対象をどうやって絞るか、といったことでした。インターネット環境のおかげで、有り余るほどの情報を苦労なしに集めることが可能になりましたが、「材料は多ければ多いほど良い」わけではないことが身に沁みて分かりました。それでも、先生が提出期限の直前まで添削して下さい、お休みの期間にも対応して下さいのおかげで、無事完成することができました。

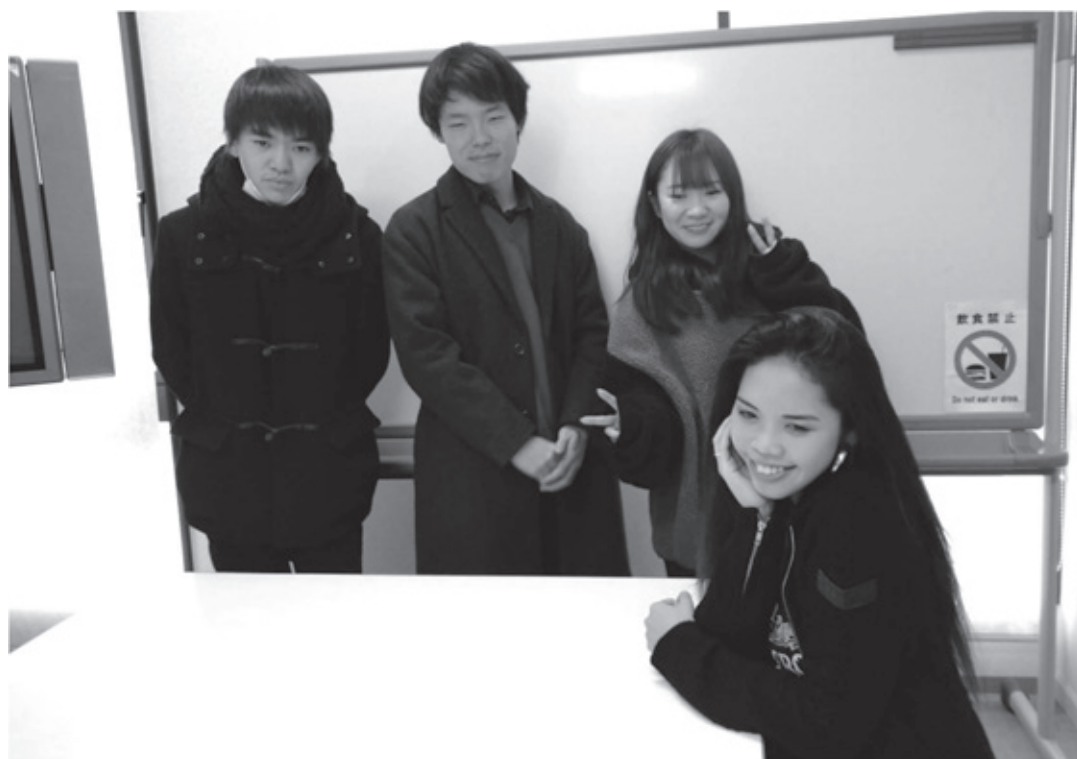
ゼミのメンバーそれぞれのテーマが違う中、津留崎先生は一人一人に的確なアドバイスをして下さり、（個人的な理由で今年度の提出を見送った一人を除いて）メンバー全員が「卒業レポート」を無事提出することができました。ありがとうございました。

津留崎毅ゼミ 研究題目一覧

1	栗飯原 幹大	キラキラネームに対する考え—様々な世代からの調査を基に—
2	伊井 将人	ネーミングについての研究 —表示性と表現性の観点から—
3	上田 莉香子	キラキラネームとノーマルネーム —キラキラの度合いを定義する試み—
4	堀内 のり子	カタカナ語の研究—英語のカタカナ表記か和製英語か—



2019年度 津留崎ゼミ（卒業研究）メンバー



津留崎ゼミ（卒業研究）の学生たち：（左から）伊井将人、粟飯原幹大、上田莉香子、堀内のり子

内藤貴子ゼミ

専門領域研究講座

3年 中山 祐希



私たち内藤ゼミは、英語圏の児童文学専門のゼミです。主なゼミの活動内容は、グループワーク、発表、ディスカッションです。まず皆で本の候補を挙げ、どの本にすべきか話し合い、読むべき本が決まり次第読み進めディスカッションを行いました。洋書を読む際には、さらに理解を深めるために映画を観賞したり翻訳を読むこともありました。様々な媒体を通してひとつの作品に触れる事で、それぞれの良さを感じ取ることができました。

このような手順を踏まえて臨むディスカッションでは、十人十色という言葉があるように、お互いの心に映る心理描写や考えた内容に関し、正解か不正解かという概念は棄て、どんな些細な事も言葉にして互いに語り合いました。グループ発表の時期が近づくと、今までに扱った作品の中からひとつの作品に絞り、より深く作品と向き合いました。同じゼミの仲間達の前で発表することは勿論の事、4年生の皆さんの前で発表を行った時は大変緊張しましたが、発表後にフィードバックをいただき今後の課題も見出すことができました。

ゼミに入る以前の私であれば、こんなにも沢山の素晴らしい作品に出会う事も、読みかけの本が手元にある安心感も、本の中で暮らしている人々の事を想うこともなかったと思うのです。本を読む事は、新たな居場所を与えてくれました。新たな発見や気づき、そして、感動を与えてくれたのは、自分が生まれる何十年も前の作品ばかりでした。新しく触れる本は、読めば読むほど、どこか懐かしさを覚えるものもありました。そんな、素晴らしい作品のなかでも、私のための一冊であると自信をもって呼べる作品にも巡り会うことができました。出版から120周年を迎えた名作『オズの魔法使い』は、ゼミで扱った作

品の中でも一番読んだ回数が多いです。何度も繰り返し読むことで、理解を深めました。120年も前の作品であるにもかかわらず、一切レトロを感じさせない斬新なストーリー展開は、現代を生きる私たちを魅了し、100年先の人々にも読み継がれる不朽の名作です。また、2020年に75周年を迎える『ムーミン』や、誰もが知っているグリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』、その誰もが知っているヘンゼルとグレーテルに登場する魔女に隠された真実を描いた『逃れの森の魔女』、そして、本に守られた少女の運命を描いた『本泥棒』は、私の人生に大きな影響を与えてくれました。



現実から目を背けず、本当の自分と向き合った少年を描いた『怪物はささやく』、人と神のハーフである少年の冒険を描いた『パーシージャクソンとオリンポスの神々』、ハリポッターシリーズに登場する本を実際に書籍化した『吟遊詩人ビードルの物語』、その他にも『テラビシアにかけた橋』や『秘密の花園』、『三匹の子豚』など、数多くの作品を扱いました。どれも全く異なる作風の作品で、全てが私にとっては新鮮で、1年を振り返るとこんなにも沢山の本に触れることができたことに、大変驚いています。このような素敵な作品の数々に出会えたのも、本を愛するゼミの皆や内藤先生が居てくださったおかげです。





児童文学というと、何を思い浮かべるでしょうか？大人になった今でも子供の頃に読んだ物語や絵本などを覚えている人も多いと思います。内藤ゼミでは、絵本をはじめ、伝承文学や小説、ファンタジーやミュージカルなど人によって研究する作品はさまざまです。

内藤ゼミでは普段の授業も、学生が主体となって進めていきます。ただ自分の研究をするだけでなく、自分たちの研究がより深まるように、学生たち自身がお互いの扱う作品を読みます。毎週みんなで一つ作品を決めて、次の授業までに読んでくることが宿題です。授業では読んできた作品について感想を共有したり、疑問を投げかけたりして意見を交換し合います。

4年生は研究課題を決めたら論文を書きはじめます。しかし、いざ書こうとしても難しくみんな思うように進みません。もちろん初めて論文を書くわけですから、わからないことだらけです。でも大丈夫。細かな部分は内藤先生が丁寧に教えてくださいます。内藤先生は温かく慈愛にあふれた先生です。学生の気持ちを尊重してきめ細かくサポートしてくださるので、安心して研究に取り組むことができます。そして、ゼミの仲間と切磋琢磨しながら作り上げた論文はきっと素晴らしいものになるでしょう。



夏にはゼミ合宿を行いました。一人ひとり卒業研究の中間発表を行い、夜にはビンゴ大会をして盛り上がりました。普段は授業でしか顔を合わせないみんなの意外な一面が見られたり、面白い場面がたくさんあったり、みんなの笑顔が輝いていました。あまり交流がなかった人ともゆっくり話ができ、とても楽しくて充実した2日間になりました。



今年度も授業以外に、ハロウィンやクリスマスなど季節のイベントを行いました。イベントでは内藤ゼミの3年生も招待し、様々なアクティビティを通して交流を深めました。文学に関連したクイズや、英語の伝言ゲーム、洋楽の歌詞並べ換えゲームなど、盛りだくさんでした。学年の壁を越えてみんなで楽しみながら距離を縮めることができました。

この1年を通して、内藤ゼミで多くのことを学びました。そして、悩んでいるときや行き詰まったときに親身になって話を聞いてくれて、アドバイスをくれたゼミのみんなと内藤先生に感謝の気持ちでいっぱいです。こんなに素晴らしい仲間に出会えたことを誇りに思います。



ケイコ・ナカムラゼミ

専門領域研究講座

This zemi explores the psychology of language as it relates to learning, mind, and brain, as well as to society and culture. We constantly asked questions and discussed many issues:

- *Animal communication*: Is language unique to humans? Can animals use language?
- *First language acquisition*: How do children learn their native language? How do we learn to speak and listen? How do we learn to read and write? How do we learn new words?
- *Second/foreign language acquisition*: How do people learn a second language? What is the best way to study a new language?
- *Bilingualism*: How do people become bilingual? How do bilinguals use language?

We gathered video clips and language data to explore the mysteries of language. In the first part of the course, each student selected an animal (e.g., cats, dogs, crows, dolphins, gorillas) to research and to examine whether their animal was able to “communicate” and/or “use language.” Some students collected data from their own pets, while others collected video clips from YouTube to illustrate their point of view.

In the next section, we studied first language acquisition, by exploring the stages of child language development. We collected video clips on parentese, the language that caregivers use with young infants. We found evidence supporting the view that parents use a certain kind of language in their interactions with children (e.g., shorter sentences, simple grammar, exaggerated intonation), regardless of the language that they are using. We also researched children in different stages of language (e.g., babbling, one-word stage, multiword stage), finding support for the view that children go through similar language stages regardless of the language they are learning.

After the summer, we researched second/foreign language acquisition, discussing our own experiences learning languages. We explored different methods of teaching (e.g., grammar-translation; communication-based teaching) and debated the merits/demerits of each teaching style. We also discussed the teaching and learning of different language skills (e.g., speaking, listening, reading, writing) and the challenges of teaching different languages.

Throughout the course we tried to use a psychological approach, always considering factors such as culture and context. Toward the end of the academic year, students conducted presentations and wrote zemi reports on a topic of their choice.

We conducted a simple questionnaire to see what topics students were interested in:

- Animal communication: Dogs, dolphins, whales, bees, bugs, etc.
- Child language acquisition: Baby language; stages of language development
- Second/foreign language acquisition: Analyzing own language experiences
- Bilingualism: Code-switching & multilingualism
- Psychology: e.g., cognitive, developmental, clinical & social psychology

Students enjoyed:

- Having class discussions on a wide variety of topics
- Using videos to understand concepts and theories (e.g., child language, animal communication, teaching methods)
- Doing presentations and writing reports on different topics
- Having class in English and researching about English in English
- Having choices and conducting research independently
- Thinking about the zemi report and next year's graduation report
- The open and supportive atmosphere of the class



卒業研究

This year's senior thesis class had 17 students! Despite the big size, everyone was very friendly and respectful of each other and got along well. For the most part, students focused on their job-hunting during the first semester, while working on their graduation report proposal. By the summer, most students had submitted a research proposal (e.g., research question, methodology, literature review) and had started to collect data on their topic of choice.

Students worked on an enormous variety of topics, in the following areas:

- First language acquisition:
- English teaching in Japan (e.g., preschool, junior high school; high school; university): on topics such as age, motivation, learning & teaching strategies (e.g., use of rap music in the English classroom)
- Sociolinguistics: e.g., teen slang in Japan, internet use & language
- Bilingualism: bilingual child language acquisition; language loss in bilinguals
- Discourse: an analysis of popular song lyrics in English
- Psychology: e.g., the psychology of failure, the psychology of happiness, cognitive approaches to second language acquisition
- Sociology: e.g., gender, LGBT, internet addiction



What seemed most difficult was finding the right topic and narrowing the topic down to a reasonable size. We had some sessions of how to conduct research, design a good research methodology and write up research findings. Also, students spent a considerable amount of time doing their literature review and collecting

their data.

During the second semester, we focused seriously (!) on analyzing and coding our data and writing up our results. Most students diligently prepared multiple drafts and wrote excellent senior theses. They should certainly be proud of their wonderful work!

From Jan. 28- 30, we went on an intensive winter retreat where students applied the final touches to their senior theses and presented their graduation research. It was a wonderful three days, with many outstanding presentations and discoveries, and some thoughtful discussions about our dreams and futures.

Here are some comments about what the students learned in this year's 卒業研究:

- The importance of helping each other & kindness
- The importance of intellectual curiosity (asking questions!)
- A wide variety of topics (e.g., psycholinguistics, psychology): especially through the research of classmates
- Making new discoveries and gaining new knowledge
- Setting goals and working independently
- How to write a research paper/ senior thesis

Students enjoyed:

- The opportunity to use English: speaking & writing in English (using English actively!)
- Their mutual friendship, respect & support
- The chance to focus on topics of interest
- Learning how to write a research paper (e.g., formatting, time management)



原 和也ゼミ

専門領域研究講座

3年 玉置 鞠亜

「コミュニケーション能力の育成は大事だと思いますか？」

この質問を聞かれた場合、ほとんどの人が当たり前のように頷くことでしょう。では、その「コミュニケーション能力」とは具体的にはどのようなもののでしょうか。おそらくほとんどの人が「相手との意志疎通を行う能力」「母国語に限らず外国語を流暢に話すことのできる能力」とすぐに思いつくかもしれません。その考えを大前提に私たちは無意識にも「コミュニケーション能力」という言葉を日常生活で使っていますよね。しかし、その考えは「コミュニケーション」のほんの表面にすぎないのです。「一体どういうこと？」と疑問に感じたあなた。そのままその探求心をもっと深めてみましょう。単なる言葉のやり取りだけではない、「コミュニケーション」というものの秘めている無限の可能性を探ることで、変わるのは考え方だけではありません。生き方そのものもです。

原先生のこのゼミでは、そのコミュニケーションというものに秘められている多様性を様々な角度からじっくりと探っていきます。それは言葉そのものにとどまらず、非言語や文化、教育、心理学、SNS など非常に多岐にわたります。言い換えれば、私たちの身の回りにあるものすべてが「コミュニケーション」に深く関わっているものを含んでいるのです。それが私たちの生きている社会にどのように影響しているのかを、知るだけでなく、そこからさらに一步を踏み出し、その社会や世界をどのように良くしていくことができるのかを積極的に自分の中で導き出すことを目指す授業です。ゼミの仲間同士でディスカッションを行い、お互いの考え方や価値観を尊重しながら理解を深めていきます。



このゼミの大きな特徴は、授業の進め方にもあります。ゼミ生によるコミュニケーションをテーマにした発表によって授業を進めていくからです。原先生のゼミ生となった私たちは主体的に授業を進めていくことが求められます。コミュニケーションに関する様々な学術的な文章がまとめられたリーディングパケットを使用し、そこから自分が最も興味を持った文献をよく読み込み、ハンドアウトを自分自身で作成しながら発表の構想を練り、時間をかけて周到に準備するのです。たくさんの情報を含んだ長い文章の中から、著者が最も伝えたいことは何か、最も重要な部分はどこか、ポイントとなる箇所を見抜くことによって情報の適切な取捨選択の仕方が身に付きます。つまり現代社会で効率よく情報を得るために必要なスキルも磨かれ、社会人になっても役立つ財産となるのです。このゼミでは、授業に関わるプロセスの一つ一つが自身の成長へと導いてくれていると実感できます。

もちろん、ゼミの仲間と一緒にいることは勉強ではありません。勝浦への合宿や飲み会など、日常から解き放たれてリラックスしながら楽しめるイベントもあります。集中するときには懸命に取り組み、リラックスするときには思いきりリフレッシュすることが大切です。効果的な学びのためには、遊びというものを全く犠牲にしてしまうのではなく、うまくバランスを取ることでこそ、勉強がより深く身についていくということも、ここで私は学んでいます。

「コミュニケーション」—それは私たちの最も身近にあるものであり、同時にそこには秘密が多く隠れています。人間社会を生きる私たちにとっては、絶対に避けられないものです。今まで持っていた「当たり前」を見直し、多方面から見たコミュニケーションの多様性と可能性を探ることによって、自分自身の価値観や視野を広げ人生をよりよく生きるためのヒントを得られると確信しています。少しでも好奇心や探求心が生まれた方、原先生のゼミでコミュニケーションの冒険をしてみませんか？



卒業研究

4年 栗山 美月

原ゼミの卒業研究は、明海大学の図書館内にある、ラーニングコモンズにて行われました。授業では、各々の調べたいテーマを決定し、調査票を作成してデータ分析を行い、論文執筆をしました。3年次の授業で学んだ様々なコミュニケーション論を生かして、自分が何を研究したいのかをじっくり考えて各自取り組みました。卒業研究はこれまで原ゼミで学んできたことの集大成でもあるので、身が引き締まると同時に、卒業が近いということを感じ、寂しい気持ちにもなりました。

前期は、就活と両立しながら、それぞれの卒業研究のテーマ決めのために図書館にて様々な論文や文献を読みました。沢山あるテーマの中から、自分が知りたいと思うテーマにたどり着くまで、論文や文献を読むことはとても大変でした。しかし、読んでいくうちに自分がまだ知りえなかった知識に出会うことがとても楽しく、やりがいを感じました。そして、夏休み後もすぐに研究に取り組めるように、夏休み前にそれぞれの研究テーマについて中間発表をしました。

後期は、いよいよ前期で決定した研究テーマについて調査票を作成する作業に入りました。回答者が答えやすく、正確なデータを得られるように調査票を作成するのはとても根気のいる作業でした。各々で調査票を試作し全員で目を通し、「ここはこう聞いた方が良いのではないか?」、「この質問の方が答えやすいのではないか?」など、意見を交換することでより良い調査票を作ることができました。調査票が完成したら、次はデータ収集をし、卒業研究としてまとめていく作業に入りました。ここからは自分との戦いなので、何度も心が折れそうになりましたが、納得のいく卒業研究にするために、原先生のご指導のもと、一生懸命取り組みました。

授業以外では、12月に勝浦のセミナーハウスにて合宿を行いました。ゼミ生全員と交流することができ、とても有意義な合宿になりました。鶏団子を作ったことがとても印象深いです。寒い中でしたが、元気いっぱい3年生と交流が出来たことは嬉しかったです。2日間という短い間でしたが、最後のゼミ合宿を楽しむことができました。ありがとうございました。

この1年を振り返ると、色々なことがありました。中でも、卒業研究は本当に思い出深いです。卒業研究に取り組む中で、難しいと感じることや、わからないことにぶつかることが多く、何度も悩みましたがその度に原先生が親身に相談を聞いてくださり、前に進むことができました。原先生の支えが心強く、とても充実した1年を過ごすことができたと思います。これもひとえに原先生のご指導のおかげだと思います。原ゼミに入ることができて良かったです。2年間、本当にありがとうございました。



松井順子ゼミ 卒業研究



Yuki Tayama: I learned a lot of English. Thank you very much.

Chihiro Tsumuraya

Yui Miyahara: I'm glad I met you! I'm gonna start my job in June. Plz come to Narita Airport to see me (JAL). Your class was Amazing! ♡

Eiji Akihito Masuda

Hina Yoshida: Thank you for 4 years. Your class was FUN! See you again!! (^ ^)

Akira Asai: Thx! So long, guys!

Hiro Akihiro Oyama: June-ko is an extraordinary professor. She's also a second mother to all of us. Being with her for 2 years, I learned a lot. Practicing interpreting and translation in her class improved both my English and Japanese skills. Even after we graduate, we would still love to hear from her.

Ryu Kumadaki

Thuy Nguyen Thi: From what I've learned from your class, I can confidently become a good worker in the future. Thank you, June-ko! You are not only a passionate teacher, you are also a good advisor. Love you ♡

Koki Nishikawa: Thank you very much. I have good memories over the 4 years.

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)

松井順子ゼミ

専門領域研究講座



Yuki Tayama: I think that this class was fun.

Myuji Maruyama: I had a very good time.

Anushika Sanjani Uswaththa Liyanage: Have a great time.

Ayuka Egawa: I was able to maintain my English skills.

Ayumi Kaneko: I enjoyed this class.

Tomone Kiyama: You will be able to use English.

Ayaka Tsukamoto: It was really fun. It was fun learning.

Rena Huseini: Interesting.

Ayumi Miura

Vincent Maling Lagustan: It was fun!

Yumi Sugiyama: Wonderful! It's like Disneyland!

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)

百瀬美帆ゼミ

専門領域研究講座

3年 金子 駿太

このゼミでは、教育の研究ではなく実践をメインに行います。ゼミ内で模擬授業を行ったり、高校へ出向き実際の授業で行われていることを身近に体験することができます。ゼミ内はアットホーム。先生と学生間の仲がととてもよく、学生は互いに高め合いながら教員を目指し努力しています。

3年 信太 明日華

百瀬ゼミは毎回とても楽しく興味深く魅力的です。授業の展開の仕方や問題の作り方などを丁寧に教えていただけます。実際に役に立つ模擬授業をしたり、YouTubeなどを見て、ゼミの全員で意見や感想を自由に述べ合えるとてもいい雰囲気のゼミです。前期には実際に高校へ授業の見学に行かせていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。

3年 鶴巻 紗希

百瀬ゼミは英語実践教育を専門としているため、教員になる際にどのように授業を作っていくか、生徒に興味・関心を持たせる為のアクティビティ型の授業を実際にゼミ生同士で協力し、模擬授業をしてダメ出しし合うなど何でも言い合えるゼミです。その他には定期的なゼミ飲みや行事も欠かしません！

3年 宮本 隆一

日本の英語教育の在り方は近年大きく変わり、また様々な課題を抱えています。百瀬ゼミは今年初めてできたゼミであり、学習指導要領に基づいた実践的な英語教育の在り方についてみんなで深く学び、深く考え議論していきます。楽しく賑やかなゼミです。

3年 内藤 卓

将来教職についた時には自分たちが中学校や高校で経験してこなかった授業をしなければなりません。そのような授業を生徒側で体験し、次に教師側で体験することができるのがこのゼミです。音楽や映画を取り入れた授業方法もあり、授業づくりが楽しくなります。

3年 中村 陸

皆さんはゼミを探するときどんなことに重点を置いて探していますか？僕はゼミの内容とともに先生の人柄や考えも大事にしていました。百瀬先生はとても元気で学生の事を考えてくれる先生です。もし将来教職を目指しているなら、百瀬先生の元で学ぶことが1番の良い先生への近道かもしれませんね。

3年 錦織 由佳

百瀬ゼミでは主に将来教員になるために今何をすべきかを学んでいます。特に力を入れていることは人間性の涵養です。英語力は勉強をすれば伸びますが、人間性は単に知識を学んで身につけられるものではありません。ゼミの活動中には何を感じどう行動するか、仲間や生徒のために何が出来るのかを考える事が多くあります。他では学べないことが多く学べます。

3年 山崎紗緒里

百瀬ゼミは英語教育について学ぶ活動的な授業です。今までの英語の授業では経験できなかったような授業を実践的に考え、教科書の題材に沿っているだけでなくより自然で生徒が楽しめるような教材を考え、探求しています。時々高校などに赴き授業見学をする機会があって、普段の授業とは違った刺激を得られます。

3年 山崎隼弥

百瀬ゼミでは先生が授業展開等のモデルをわかりやすく示し、私たちがそのモデルや教材をどのように活用するかを先生も交えて話し合いながら学んでいく、まさにアクティブラーニング型の授業を行っています。指導法を学び、討論し、模擬授業で発表するばかりでなく、高校の授業を見学に行って生徒たちの反応等を自分の目で見てくることもできます。

百瀬先生は“本当に”頼りになる先生です。教職をとっている学生なら必ず経験する教育実習に向けて百瀬ゼミで一緒に準備しませんか？



卒業研究題目一覧

大津由紀雄ゼミ

1	清水 勇作	過疎地域と田園回帰について
2	石川すみれ	人はなぜ化粧をするのか
3	上田 楓	ファストファッションが人気な理由
4	大坪 知生	ノンセンス文学とは
5	菅野 光祐	「やばい」の使われ方の違い
6	宗像 麻祐	日本語と英語のオノマトペ
7	山田 実紀	フォニックスについて考える
8	吉田 静	安楽死を選ぶ自由

【講評】「自分のあたまで考える」習慣をつけることを目指してきました。それがどんなことであるのか、どこまで実感できたか、一人ひとり振り返ってみてください。卒業、おめでとう！

河原伸一ゼミ

1	釜田 彩花	ファッションの情報収集手段の変化に関する考察 ～ファッション雑誌と SNS の関係性を中心に～
2	酒井 汐音	ラーメンのアレンジ性と魅力に関する考察
3	坂本仁唯奈	店内 BGM の心理的影響に関する考察
4	杉浦 孝佑	レイス株式会社のスカウト事業の優位性に関する研究 ～現在の職に満足している人がなぜ転職するのか～
5	住吉 咲紀	男女平等に対する日本人の意識に関する考察
6	長谷川裕晃	E スポーツを用いた地域活性化の魅力と課題
7	三浦江梨花	じゃがりこヒットに関する考察
8	宗形 萌里	言語と音楽の相関性に関する考察

Jesse Glass ゼミ

1	BUI PHAM DUY SON	The Faust Theme in American Blues Music
2	張 蘭蘭	Supernatural Stories from Medieval Chinese Collections of Odd Events

金子義隆ゼミ

1	桑田 郁	アクティブ・ラーニング型授業における内化不足とその改善策
2	佐藤 光	アクティブ・ラーニングと5領域を活用した授業研究
3	佐藤 みゆき	アウトプット力を向上させる授業研究
4	山下 茉穂	互いに学び合い、教え合う授業研究—アクティブ・ラーニング

川成美香ゼミ

1	吉澤美由紀	カナダ英語 “eh” の機能と使用法に関する社会言語学的分析
---	-------	--------------------------------

小林裕子ゼミ

1	西原 綺乃	車社会が抱える問題—高齢化時代に突入した日本における交通事故と海外のユニークな違反对策—
2	内田 隼人	太平洋戦争の歴史と体験者たちの言葉—祖父母との対話を通して戦争を考える—
3	前山 一弥	プラスチックごみ問題—深刻化する海洋汚染—
4	高田凌太郎	日本の税・世界の税—政治への参画として税金を再考察する—
5	我満 彩斗	日本人と英語の関係性について—英語修得はグローバル人材にとっていかに重要であるか—
6	吉富 万祐	メディアと育児—メディアは見ても、親の目は見ない子供たち—
7	滝沢 紘平	AI と自動運転—人間にしかない価値を生み出せ—
8	小松 千寛	ゲームの今とこれから—目標達成へのプロセスとしてのゲームの分析

【強い主張と創造性あふれる力作が揃いました。頑張りましたね😊／小林】

嶋田珠巳ゼミ

1	大木 由美	子どもの言語獲得—1歳児の発話の観察から
2	尾関 拓巳	英語の分裂文をめぐる話者の母語直観—焦点位置の句範疇と使用の文脈
3	源田 将大	新語はどのように生まれてどのように死ぬのか
4	高木 直	現代の若者言葉と移り変わり—アンケート調査に基づく考察
5	田中 純菜	長野県松本方言—アクセントと方言意識を中心に
6	東田 明莉	真っ赤なブルーは何色か—心を表す言葉

7	中井 星葉	言葉による笑い—漫才の会話を切り取って
8	橋本湧太郎	方言は消えない！—山形県米沢方言の話者 30 人へのインタビュー調査と参与観察
9	松本 峻輔	気持ちがこもってないデジタルな敬語
10	渡邊 未来	人を惹きつける言葉の表現—テレビ、雑誌の例の検討とインスタグラムを用いた検証

【夏以降、急成長。全員卒論完成、議論型研究会で発表。それぞれにあなただからこそ書いた卒論。いっぱい感動した、ありがとう。／嶋田】

高田智子ゼミ

1	朴 炫俊	Three-Dimensional Grammar Framework に基づく中学校レベルの文法項目導入方法研究
---	------	---

高野敬三ゼミ

1	有賀 瀬菜	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか —学習評価の在り方と評価学習指導要領の変化に伴う評価方法の変化—
2	池田 義友	日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか—中学校を中心とした小中高連携におけるコミュニケーション能力の育成の在り方に関する研究—
3	狩谷 亜美	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか—セサミストリートと幼児英語教育—
4	初見 侑	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか—早期英語教育の必要—
5	渡辺 幹太	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか—小・中・高校に求めている英語力とその実態—

津留崎毅ゼミ

1	栗飯原 幹大	キラキラネームに対する考え—様々な世代からの調査を基に—
2	伊井 将人	ネーミングについての研究 —表示性と表現性の観点から—
3	上田 莉香子	キラキラネームとノーマルネーム —キラキラの度合いを定義する試み—
4	堀内 のり子	カタカナ語の研究—英語のカタカナ表記か和製英語か—

内藤貴子ゼミ

1	浅野 晴花	魔法にかけられた私たち ——くまのプーから見るぬいぐるみの存在意義——
2	岩本 萌実	<i>Madeline</i> の裏側 ——作者の心に焦点をあてて——
3	荻堂 颯	<i>Vikings</i> 論——映像で描かれるアングロ・サクソン時代の多様性——
4	駒崎 祐貴	ナルニア国物語『さいごの戦い』論 ——キリスト教の現れとナルニアの真の姿——
5	佐々木房之介	『風によってきたメアリー・ポピンズ』と映画『サウンドオブミュージック』から見た“Everyday Magic”
6	西川 ゆずか	親子間のコミュニケーションツールとしての絵本の価値 —— <i>When Sadness Comes to Call</i> を通して——
7	野田 優佳	<新時代の悪役物語>論 ——時代をこえて変化する魅力と必要性——
8	平井 日菜	物語の色と時間 —— <i>Momo</i> を中心として——
9	町山 理穂	<i>Howl's Moving Castle</i> からみる長女の心理学
10	三田 玲奈	アガサ・クリスティーとコナン・ドイルの女性らしさと男性らしさ ——時代背景から読みとる——
11	吉川 実優	<i>Tom's Midnight Garden</i> に描かれた孤独について ——社会問題に迫るタイムファンタジー——

【独自の論点を自立的に探究し、活発に議論できるようになったって素晴らしい成長ですよね！】

ケイコ・ナカムラゼミ

1	秋森 紋華	How to motivate junior high school students to study English
2	稲吉 駿	失敗に対する価値観の研究 -失敗価値観と原因帰属の測定及び相関分析-
3	大沼 由奈	大学生の幸せになる条件の語り方の解明
4	神谷 星香	The gender bare walls
5	菊池 凌平	翻訳の「質」を考える -翻訳実戦から考える翻訳の可能性-
6	小林 崇晃	The realities of English language learning at the university level: Focusing on students at Meikai University
7	齋藤 苑香	Teen slang in Japan

8	Subedi Kul Prasad	The difficulties of learning a second language for children of international marriages
9	西尾 翔太	第二言語学習は認知機能向上に有効であるか —第二言語学習論と認知脳科学の視点から—
10	樋口 敦也	匿名コミュニケーションの力と課題
11	平野みずき	Language use and language loss: Bilingual students in English-speaking countries and Japan
12	堀江志穂乃	The most effective way to study English
13	前川 未来	歌詞の表現方法の特徴 —グラミー賞最優秀レコード賞受賞作品より—
14	宮内 夕希	The necessity of English in Japan: English Education from a younger age
15	宮本 樹弥	明海大学生のインターネット利用状況と依存傾向
16	安居 亮	ラップミュージックを用いた授業の検討

【Thank you for a wonderful two years! You worked hard and as a result, have written amazing senior reports/theses. Best of luck in your new post-Meikai life!】

原 和也 ゼミ

1	新井 琢人	スマートフォンとコミュニケーションの関係 —スマートフォン社会がもたらしたコミュニケーションの変化—
2	太田 理沙	就活メイク時と普段メイク時の印象操作や気持ちの変化
3	栗山 美月	他者意識が自己開示の満足度に与える影響について
4	春名 貴博	過去と現在における顔文字・絵文字に対する意識の変化と機能
5	綿貫 克哉	居酒屋店員に求める理想の接客像—円滑な対人コミュニケーションを図るために—

【自分と対峙し、自己の限界を超えたからこそ書きあがった論文です。/原 和也】

松井順子ゼミ

			Interpreter
1	田山 裕輝	Japan-Sino Relations	Akira Asai
2	圓谷 千紘	Snapshot Culture	Thuy Nguyen Thi
3	宮原 優衣	Studying Abroad	Hina Yoshida
4	吉田 妃那	World Beaches	Yui Miyahara
5	浅井 章	Sugar Consumption in Britain and Japan	Koki Nishikawa
6	大山 輝裕	The Value of Travelling	Akira Asai
7	グエン ティ トゥイ	How to Live Positively	Chihiro Tsumuraya
8	西川 宏輝	Traffic Accidents Caused by the Elderly	Hiro Akihiro Oyama

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)

【Deep Analysis of Excellent Topics and Well-Prepared Interpretations!／June-ko Matsui】

海外英語研修 CQU (オーストラリア)

この英語研修は 2019 年 2 月から 3 月に行われたものです。

各学生の学年は 2019 年度のものになっています。

オーストラリア CQ ユニバーシティ研修にて

4 年 新井 琢人

私は 2019 年 2 月 17 日～同年 3 月 17 日の丸 1 ヶ月、オーストラリアのシドニーにある、CQ ユニバーシティで行われた語学研修に参加致しました。生活場所はホームステイです。一日の主な予定としては、平日の 9 時～11 時、11 時半～13 時半は授業を受け、その後はシドニーの様々な場所へ行くツアーが組み込まれていたり、自由時間であったりしました。土日は一日かけて、ブルーマウンテンやフェリーで行ける動物園に行くツアーが組み込まれていたり、一日フリーの日があったりしました。授業は明海生 7 人と先生 1 人による形式でした。例えば、英米語学科であれば誰もが受ける、Integrated English のような授業です。学習内容は、オーストラリアの文化や歴史、スポーツ、音楽、芸能、芸術、食べ物、そして異文化コミュニケーションについて、主に 2 人や 3 人のペアになって、ディスカッションを通して学びました。日本での授業のように、a や the を付ける単語、r と l の発音の違い、仮定法、未来形といった文法的な学習も行いました。また、授業後には課題が出たことが何度もあり、日本ではごく普通の、例えばテキストの何ページを解いてくる、自分の興味のある音楽について調べるといった課題が出たこともありましたし、私を含め、研



修生 7 人全員が驚いたであろう課題が出た時があります。それが、シドニーのオリジナルツアーを授業内で考えて、発表をしたことがあったのですが、自らが考えたツアーを元に、その考えたツアーで行く場所を動画で紹介するというものです。初めの頃の内気持ちとしましては、まず

何かを紹介する動画を撮ったことがありませんでしたし、しかもそれを英語で行う。日本で行ったことがなかった試みを行うので、不安な気持ちしかありませんでしたが、いざ撮ってみると楽しくて、むしろ行えて良かったという気持ちになりました。その動画の課題を乗り越えただけでも、積極性が増し、困難を乗り越える大切さを改めて学びました。

また、授業の最終週にはプレゼンテーションを行いました。内容は、3つのグループに分かれて、日本とオーストラリアの風景や慣習、生物の違いについて調べ、発表をするものです。私のグループは風景について調べました。普段は見て感じるのみですが、いざ深く調べてみるとまた違った気付きや発見がありました。続いて、ホームステイについてです。この時は明海生2人ずつ受け入れられましたが、参加者が全員で7人でしたので、私は一人で受け入れられました。他にも中国、スイス、ブラジルからの留学生と共に過ごしました。ホストファミリーはマザー、ファザーの2人です。しかしファザーは2日目以降はずっと出かけていたので、実質マザー1人です。家の中が全員違う国出身でしたので、まず英語の可能性の大きさ、グローバルな環境の面白さを、生活を通して学びました。

私は今回の研修で、英語力の向上はもちろん、異文化適応能力を身に付けました。私は就職活動はホテルと航空業界を目指しているので、そこで活かします。初めての国、初めてのホームステイで不安だらけでしたが、「楽しむ」という気持ちで臨めば乗り越えられます。乗り越えた先には何とも言えない達成感がありますので、参加することを強くお勧めします。



初めての異文化体験

3年 神谷 美麗

授業は Integrated English のようにコミュニケーション活動が中心でした。4 週間研修があったうちの最初の 1 週間はオーストラリアの地理、アボリジニの文化や歴史、郷土料理など、オーストラリアについて学びました。2 週間目は様々な形容詞や文法についての授業を挟みつつ、動物や絵について個人でのプレゼンテーション、Kahoot! を利用したクイズ形式の活動を行いました。3 週間目は研修の最後にとりまとめとして行われるグループ発表の準備を進めつつ、個人でオーストラリアの観光地を勧めるビデオを作成し発表、オーストラリアの早口言葉や発音についても学びました。最後の週はグループ発表に向けての練習やパワーポイント、レポートの作成を行い、予行練習をしました。そして最後にはグループごとに着々と準備を進めてきた発表をし、担当の先生より個人評価をいただきました。

この研修ではホームステイを体験しました。私のホームステイ先にはホストマザー、ホストファザーと 4 歳の女の子と 3 歳の男の子、大型犬がいました。生活としては、朝は 6 時に起床し食パンを食べ、約 1 時間かけて学校に行き、9 時から午後 1 時半まで授業、放課後はツアーなどが設定されている日が何度かあり、ショッピングモールや公園、美術館、ビーチなど色々な場所を案内していただきました。午後から自由時間となっている日は、ホストマザーの仕事の関係上 5 時半以降でないと帰宅できなかったので、ショッピングや学校付近を散策して過ごしました。帰宅後は子供たちとお絵かきや玩具を使って遊んだり、ほかの留学生と遊んだりしました。その後食事をし、5 分でシャワーをすませ、課題をやるといった生活でした。土日はツアーが設定されている日はツアーを楽しみ、ツアーの無い日は友達とビーチや買い物、有名なマーケットや遊園地に行ったりしました。生活で一番困ったことは洗濯です。週に一度しかしてもらえなかったので、服が足りず何枚か現地で購入しました。出費は毎日の昼食以外の食事、交通費は研修費用に含まれていたのでもう少なくて済みました。



い日は友達とビーチや買い物、有名なマーケットや遊園地に行ったりしました。生活で一番困ったことは洗濯です。週に一度しかしてもらえなかったので、服が足りず何枚か現地で購入しました。出費は毎日の昼食以外の食事、交通費は研修費用に含まれていたのでもう少なくて済みました。



研修を通して、オーストラリアに関する知識が深まったのはもちろん、英語を話すこと、人前で話すことに対して大変自信がつけました。オーストラリアの英語については、いくつかのフレーズ、略語を学びましたが、研修で学んだもの以外にも多く存在していると思うので、今後もオーストラリアの英語について積極

的に学習しようと思います。将来教師になりたいと思っているので、今回の研修で幼い子供たちと一緒に約1ヶ月過ごすことができ、とても良い経験になりました。ホームステイ先の子供たちから教わったマザーグースの歌に興味をもったので、これから歌詞の意味を調べたり、ほかのマザーグースの歌についても調べ、将来授業で扱う際に役立てたいと思います。

初めての海外研修 in Australia

3年 平原 豪

私のホームステイ先では私たちのほかに、中国やデンマークからの留学生がホームステイしていました。皆さん本当に優しい方で、毎回夕食のときには「今日は何を学んだの?」「明日はどこ行くの?」などといった簡単な日常会話をはじめ、それぞれの母国について話したりしていました。研修前は洗濯物や食に関してとても不安でしたが、私のところでは全てやっていただいたので、一切困ることなく生活できました。ホームステイ以外では、マルディ・グラという祭典が特に印象に残っています。これはオーストラリアのシドニーで毎年開催される同性愛者のパレードです。当日は世界中の情熱的な人々であふれ、とても熱狂したシドニーに変わっていました。日本では絶対にありえないと言わんばかりの派手さと、自分をさらけ出し本当の自分として生きる自由を勝ち得た方々によるパフォーマンスが、とても強く印象に残っています。イベントは無料なので、学生の私でも気軽に見物することができました。日本ではできない良い体験をたくさんできたのが一番の思い出です。

研修前は正しい文でなければ言いたくない、つまり間違えたくないという考えを持って

いて、いつも話す前には頭の中で正しい文章を組み立ててから口に出すということが多かったです。しかし、研修では授業や現地の方と話す際にそのやり方では遅れてしまうため、文法的に変な文章になってしまったとしても、伝える意欲のほうが大切なのだと気が付きました。オールイングリッシュの生活ですので、授業やホームステイ先において、理解できない時がもちろんあります。その際、わからないまま放置せずに、必ず先生やホームステイ先の方に聞くようにしました。このような行動を繰り返していくうちに、研修終盤ではオーストラリア英語にも慣れ、はじめは、知っている単語の発音の違いに戸惑っていたのですが、自然と知識として蓄積されていくのを肌で感じ、しだいに分かるのが楽しいと思えるようになりました。

CQU ではプレゼンテーションやディスカッションをする機会が多かったため、人前で英語を話すことに対して、自分に自信ができました。また、海外研修をして初めて日本の良さに気づく反面、日本の悪い所にも気づかされたので、自分自身ひとつの考え方にとらわれずに、様々な観点から物事を見るよう意識して行動しようと思いました。最後に、この研修を通して、英語で伝えることや、相手の言っていることがわかる楽しさを改めて実感したので、これからも語学学習をやめずに、海外旅行やTOEIC、英検にも挑戦し続けようと思います。



海外英語研修 UCLA (アメリカ)

夢のロサンゼルス

3年 川邊 由香

私は8月25日から3週間、UCLAでの語学研修に参加しました。UCLA研修は大学入学時からの夢だったので、ロサンゼルスに行くことが決まり、とても嬉しかったのですが、同時に海外での寮生活を乗り越えられるのか、不安でいっぱいでした。出発前からいろいろなことを考え、不安だらけのまま、研修に向かいました。しかし、現地に着くと刺激的で楽しい毎日が待っていました。

平日はUCLAのAmerican Language Centerで授業を受けました。先生方はみなさんフレンドリーで、どの授業も楽しかったです。私はAcademic、Culture、Discover L.A.の三つの授業を取りました。特に楽しく、また勉強になったのはDiscover L.A.でした。



この授業では、ロサンゼルのハリウッドやビバリーヒルズといった観光名所に行き、その場所の歴史や文化を学びました。現地では一般の方にインタビューをしたり、グループワークをしたりとアクティブな授業でした。初対面の方に英語でインタビューすることはとても勇気がいりました。しかし、優しく接してくださる方が多く、とても嬉しかったです。そして、自分の英語がちゃんと通じていることがわかり、自信ができました。

休日は自由に観光ができたので、バスやUberを使い、いろいろなところへ行きました。私はアメリカの映画とドラマが大好きなので、ワーナー・ブラザーズ・スタジオの見学ツアーに参加したり、ハリウッドにある映画関連の博物館に行ったりしたのが一番の思い出です。小さい頃から見ている映画やドラマのセット、小道具を見て、とても感動しました。

他にも洋服を買いにメルローズプレイスや、海を見にサンタモニカにも行きました。また、ロサンゼルスでしか味わえない Pink's のホットドッグや、In-N-Out のハンバーガーを食べたこともいい思い出です。何よりも、観光をする中で、街の人と英語でたくさん話す機会が多くあり、英語で話すことの楽しさを知りました。

研修と一緒にいく学生たちの中に知り合いはほとんどなく、とても不安だったのですが、楽しいこと、大変なことを毎日一緒に乗り越えていく中で、自然と仲が深まっていき、毎晩、御飯を食べながら、みんなで一日の出来事を話すのが楽しみでした。みんなで過ごした3週間は、一生の思い出です。また、怖がり、殻に閉じこもっていた私にとって、この研修は大きな冒険でした。しかし、この研修を通して、勉強の面でも人間的にも成長でき、さらに素敵な人々や物と出会えたことで、勇気を出して一歩踏み出すことの大切さに気付きました。このように実りの多いものとなり、この研修に参加できて良かったと強く感じています。また、一緒に過ごした仲間や、支えてくださった引率の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

UCLA 研修に参加して

3年 齋藤 愛真音

今回、アメリカのロサンゼルスにある UCLA への海外研修に参加し、とても有意義な時間を過ごすことができました。私自身、大学在学中に留学に行けたら良いなと何となくではありますが考えていた中、今回このような貴重な機会を頂くことができ、とても感謝しています。研修前の当時の私は、海外研修の日にちが近づくにつれ、楽しみよりも正直不安な気持ちが勝っていました。研修前の自分は未熟だと感じる部分が数多くあり、そんな自分が果たしてアメリカで生活していくことができるのだろうか、とても不安でした。それはロサンゼルスに着いて間もない頃もまだ同じ気持ちでした。最初の頃は、ロサンゼルスと日本との文化の違いに戸惑いました。横断歩道の渡り方や人とのコミュニケーションのとり方、スーパーマーケットで何かを買うことも、最初の頃は何に対しても臆病になっていました。しかし、生活をしていくにつれて、そのような不安な気持ちは少しずつ無くなっていきました。それは一緒に過ごす仲間がいたおかげなのかもしれません。研修をする前は顔見知り程度、または全くの初対面だった相手とこの研修中、一緒にの時を過ごし様々な体験を共にしていく中で、少しずつ「仲間」という意識が芽生えていきました。それとともに、ロサンゼルスで生活をしていくことが楽しくなっていきました。そして、仲間や学校の先生、友達、現地の人々など、様々な人とコミュニケーションをとることが徐々に増えていきました。

授業では、午前と午後のクラスに分かれ、午前は Academic を、午後は Discover L.A. という科目を選択しました。Academic では、主にペアやグループになりディスカッションを行ったり、映画を視聴しながら文法や語彙、熟語などを学びました。Discover L.A.では、ハリウッドやベニスビーチ、ゲッティー・センターなどの美術館など、ロサンゼルスの名所を訪れ、そこで現地の人々にインタビューをするなど、実際に自分自身がロサンゼルスの街並みや人々に触れ、文化を学んでいきました。Discover L.A.では、現地の人々とコミュニケーションをとる機会が多く、日を追うごとに英語力が向上していくのがわかりました。



今回、UCLA への研修を通し、英語力だけでなく、コミュニケーション力や行動力など、様々な能力が研修前より確実に向上することができたと思います。また、日本とは全く違う文化を直接肌で感じることができ、ロサンゼルスの良さがわかるとともに、より日本の良さも再発見できました。今回の研修を機に、これからも様々なことに挑戦していきたいです。

UCLA

The memory I will never forget —濃厚な3週間！—

3年 信太 明日華

私は、2019年8月25日から9月15日の3週間、アメリカのUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)での奨学海外研修に参加しました。今年の春休みに、教職でオーストラリアに留学させていただいていたので、今回は2度目の海外研修でした。

UCLAでは、月曜日から金曜日の、午前と午後に授業がありました。午前は、AcademicとCultureの授業を受けました。Academicでは、グループワークを中心に表現やイデオロムなどをクイズや会話形式で学習しました。Cultureでは、“The Big Bang Theory”や“Modern Family”などの海外ドラマを見て、アメリカの文化やスラング(俗語)、正式な言

業ではないけれど、若い年齢層や地域には、伝わる言葉などを学びました。午後は、Discover L.A.という授業で、Hollywoodや Venice Beachなどをクラス全員で見学に行きました。校外学習をした後は、学んだことをパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションをしました。午前のクラスは約20人で、大体が日本人でした。他大学の日本人同士でしたが、英語で会話をすることができて、とても刺激を受け、楽しかったです。中国・台湾・韓国・ブラジル・サウジアラビアなどの出身の方々もいたので、国際色豊かでした。皆さん親切で、フレンドリーな方々ばかりでした。

私達は、UCLAの寮で、3人一部屋で3週間一緒に生活をしました。とても安心感がありました。食事は、寮にある食堂で食べました。バイキング形式で、カリフォルニア米があり、エスニック風の料理の中には、ちょっと辛い味付けの料理もありました。お肉や揚げ物だけではなく、サラダなど野菜もたくさんあり、健康的でバランスの良い食事がとれました。デザートは、フルーツやケーキなどの洋菓子があり、どれもおいしかったです。毎日、いただける寮の食事のおかげで食事の心配をすることがなかったので、大学の勉強に力を入れることができました。健康に生活ができて、感謝しています。また、大学の近くにスーパーマーケットや軽食が買えるお店があります。

シャワールームは、シャワーを浴びる時間制限などはなくて、シャワーのお湯も十分に使えました。寮の中のコインランドリーで、洗濯もできるので安心でした。

私は、寮で生活したことが初めてだったのですが、姉妹校と一緒に参加をした、朝日大



学の学生と明海大学の学生と常に一緒に行動ができて、とても安心して生活することができました。

研修での、私の研究テーマは、カリフォルニアのスラングについてでした。UCLAの学生やUCLAの先生方にインタビューをして答えていただきました。初対面なのに、現地の方々はとてもフレンドリーで、まるで友達のように気軽にインタビューに受け答えをしてくださいました。英語で話し、コミュニケーションが取れたことが、楽しくなってきたのと、自分の英語は通じているのだと、自分の英語に大きな自信を持つことができました。日本では、あまり英語で話す機会がなかったので、とても楽しかったです。現地に行けたことで感じることもできた気持ちだと強く思います。

週末は、メルローズで友達とショッピング、ウォールアートを見て、文化を学ぶことができ、とても有意義に過ごすことができました。

今回の研修では、とても貴重な経験ができた濃厚な素晴らしい3週間でした。このような貴重な経験をさせていただけた、明海大学にとっても感謝しています。ありがとうございました。引率してくださったナカムラ先生、前田先生のおかげで、とても楽しく安心してアメリカで過ごすことができました。ありがとうございました。

研修のおかげで英検準1級の1次試験に合格出来ました。特に、英作文は今回の研修のおかげで満点を取ることができました。

研修で学んだことは、これから先、一生忘れられません。

百聞は一見に如かず

3年 白井 萌

私は2019年8月25日から9月15日まで、アメリカのUCLA Extensionで約3週間の語学研修に参加しました。以前私は、オーストラリア語学研修に参加しシドニー大学に行きました。その際にとっても古風な建物であるシドニー大学に比べUCLAは語学から医療まで分野ごとに建物があるため近代的で設備が整っているように感じ、同じ有名大学でも学ぶものが違うと建物の外見も変わるものだと感じました。

私たちはUCLA Extensionで3週間という短い期間で沢山のことを勉強しました。私たちの他に他大



学の学生や社会人学生、アジアや欧米の国々から来た人が多く国際色豊かでした。

授業では、最初のインタビューテストによりレベル別にクラスが分けられ、私のクラスでは残念なことに海外の方が2人しかいませんでした。私がとった午前の授業で共通している部分が、どの授業も必ず知らない単語を学べることができ、スラングや文化を海外ドラマやクイズショーを通じて学ぶことでした。今までに一度も海外のドラマは見たことがなかったので、どれも新鮮に感じましたし、日本の価値観が覆されるような文化の違いもありました。

午後の授業では、ロサンゼルス有名な場所へ実際に赴いて現地の人に質問をし、観光をしました。次の日の授業で、自身を感じたこと考えたことを写真を用いて先生に発表をしました。自分の考えを英語で述べることは難しく、単語が出てこないことが多々ありましたが、先生に向かって話すことにより自信がついたように思えます。

また、休日には **Santa Monica Beach** や **Venice Beach** に行く機会があり、自分がよくテレビで見ている西海岸のイメージと大差なく、また日本のビーチと違いとても活気があり、観光客が多いと感じました。他にも、滞在先である **Westwood** 内を散策し **UCLA** の所有する植物園や美術館などを鑑賞しました。そこにも多くの観光客や地元の方々があり、自分の身近にこのような場所があったので素敵な機会に巡り合えたと思いました。私は、現在教職課程を履修しています。大学を卒業した後、高校もしくは中学の教員になった際に自分の海外留学の経験を児童生徒に伝えたいと思います。その際に、最初から自身の経験を話すのではなく、英語の学習に行き詰っていたり、伸び悩んでいる生徒に向けて話したいと思います。私の話で生徒の将来の道が増え視野が広まることの手助けをしていきたいと思っています。



私は、大学4年間の間に海外留学に行けるとは思っていませんでした。しかし、このような幸運な機会に巡り合える事ができ、とても驚いているのと同時に感謝をしております。改めて、UCLA 研修に参加することができとても嬉しく思います。

UCLA で得たこと

2年 梶屋 健人

私たちが今回の研修に向かったのは通称 UCLA と呼ばれるカリフォルニア大学ロサンゼルス校でした。ロサンゼルス空港に着いた瞬間から聞こえる英語や空気、湿度などから日本と全く違う感覚がしました。ロサンゼルスの印象はアジア系の方もいれば黒人の方もいて国際色が豊かな印象でした。

私は今回の研修で以前に比べて大きく視野を広げて積極性を持つことが出来ました。私は今まで海外渡航経験がなく今回の研修が生まれて初めての海外でした。そんなこともあって、今回の研修での経験は私にとって非常に刺激的でした。

まず、現地の学校での授業はほぼすべての授業で学生たちが積極的に参加することが求められました。フィールドトリップの授業では現地の人に自分で話しかけ質問をするというものでしたが、最初はなかなか声を掛けられなかったり話しかけても断られることがあったりと大変でしたが慣れてくると現地の人との会話も盛り上がりとても楽しいものでした。このように主体的に動き人とコミュニケーションを取れるようになった点も成長できたところだと思います。そして教室での授業はアメリカでの文化を映画やリアリティーショーから学び、それについてディスカッションをするものでした。先生からの質問が多く内容も「なぜ？」や「どうして？」といったことを聞かれました。私のクラスは日本人が多く最初はみんな消極的でしたが数人いた外国人の方の積極的な姿勢に感化され、次第にみんな完璧に話す必要がないと理解し、英語を話すことに抵抗を感じず発言をしていました。様々なバックグラウンドの人がそれぞれの個性や意見を認め合いながら議論をしている様子は私の視野を広げてくれました。

そして、プライベートでは授業よりもさらに刺激的でした。休みの日にどこかに行くときに私はよくバスを利用したのですが、バスの中でたまたま隣同士に座った人が気さくに話し合っていました。そのような光景は日本ではまず見ないのでアメリカと日本の文化の違いを目の当たりにしました。実際に私もバスの中や街中で話しかけられることがありました。学校の先生以外のネイティブの人と話す経験は日本にはなかなか得られないものだと思うので貴重な時間が過ぎて良かったです。この研修を通じて積極性と広い視野をもつことの大切さを学ぶことが出来ました。

このように私はロサンゼルスでとても有意義な 3 週間を送れました。最後にこのような機会を用意して下さったすべての方々、ありがとうございました。

ロサンゼルスの 3 週間

2 年 金子 守

私は 8 月 25 日～9 月 15 日の 3 週間、カリフォルニア大学ロサンゼルス校付属の EXTENSION という場所で語学研修に参加していました。授業は午前と午後の 2 種類があり午前の授業は **Integrated English** の様なコミュニケーションを主体とした授業でした。午後の授業はフィールドワークでロサンゼルスの様々な観光地を巡り各場所でインタビューを行いました。

この研修が私の初めての海外渡航ということもあり慣れない環境、体験したことがないことばかりでした。そのカルチャーショックもあり体調を崩し、気分が激しく落ち込むなど自分も知らなかった繊細な自分と出会うことができました。しかし、ポジティブな自分の部分を発見することもできました。一つ実際にあった出来事を話そうと思います。昼食をショッピングモールで食べながら初対面の人と話す機会がありました。名前も国籍もなぜ自分に話しかけてきたのかも全く分かりませんでした。どうやら彼の名前はカルロスといい国籍はペルーで、テレビ局の撮影でロサンゼルスにやってきました。彼は日本の「るろうに剣心」という侍が出てくる漫画で日本に興味を持ち、自分に話しかけてきたよ



うでした。私は彼が日本の文化に詳しいことに驚きました。彼の口からは脇差、黒船、板垣退助などの言葉が出てきました。映画の時間が迫っていたため彼とは別れ、台詞の半分も理解できない「It Chapter Two」を見に行きました。

彼が日本の明治文化に精通していることにも驚きましたが、それ以上にその会話を楽しんでニヤついている自分に驚きました。日本で初対面の人と話すとき私の表情は硬い方です。少なくとも自然に振る舞い笑うことはあまりありません。しかし、カルロスと話しているときはそれができたのです。カルロスが特別、話術に長けていたとは思えません。

私が思うに、これはカルチャーショックのせいだと思います。前述したように今回が初めての海外渡航でした。そのため何をするにも様々な種類のストレスが降りかかってきました。自販機でお釣りが台湾のお金だったこともあります。ハンバーガーを買うのにも苦労しました。しかし、そういった様々なストレスが降りかかり余裕が無くなった状態だからこそ、自分の中の出しづらい部分が出てくるのかもしれませんが。これを日本で再現するのは難しいと考えます。そのため、今回の研修は極めて貴重で有意義なものだったと感じています。今、少しでも研修に参加できる可能性がある学生は、是非ともチャンスを掴んでほしいです。

First trip overseas

Yuka Sugihara (2nd year)

I went to UCLA and participated in the Intensive Communication English program. It was the first time for me to go overseas. I worried considerably before I went. For example, could I have conversations with people in Los Angeles? Contrary to my worries, there were many kind people. So, I had a great time for three weeks. I realized again that I still have a lot of things to learn by living in the U.S. I could experience many things which I couldn't experience in Japan, and I went to many famous places such as Hollywood, Griffith Observatory, and Santa Monica. There was beautiful scenery everywhere and it was very exciting for me. Therefore, I will talk about three things that I experienced and which left a strong impression on me.

First, I improved my English listening ability by participating in this study-abroad program. I couldn't understand even simple English phrases during my first week. People spoke so fast, but gradually the number of times that I asked repeatedly for repetition and

clarification decreased. I got used to the speed at which English speakers speak, so I was able to catch what they said more quickly.

Second, I collected questionnaires from many people. This left an impression on me. I asked many people questions standing in front of a supermarket after school in order to write my report. I was very anxious at first, and I could hardly talk to anybody as I'm not that outgoing. However, I felt that little by little, I became less nervous. By the end, I could talk to many people. There were many kind people when I talked to people in front of the supermarket. Many people pleasantly answered my questionnaire. I think this experience was great for me because I had never conducted a questionnaire on people in English before.

Third, I learned about cultural differences. I knew that there were cultural differences



between Japan and the United States, because I watched TV, listened to people, and so on. For instance, cars run on the right side, and people don't take off their shoes in their houses. However, there were many things that I didn't know. For example, pedestrian traffic lights don't turn green until a button is pushed. It took me time to get used to this. So, there were many times that I forgot to push the button, and I waited until someone else pushed it. In this manner, there were many different things between Japan and the United States.

In conclusion, I could learn and experience a lot of things during these three weeks. Also, my English listening skills improved. In addition, I conducted questionnaires with many people in order to write my report. From these experiences,

I learned of cultural differences between Japan and the United States. I learned to take action positively. I had a wonderful time during my three-week stay, and I learned and experienced many things in Los Angeles.

Experiences in California

Yuina Tanaka (2nd year)

It was my first time to go to the United States. In my daily life, I have limited chances to speak English. However, living in the U.S., one is always required to speak English. I could hear English everywhere. This situation is perfect for people who are learning English. The more time I spent at UCLA, the more I felt that I didn't want to go back to Japan. Everything I experienced was refreshing. In particular, I have two memorable experiences. One is an event which I never expected at Griffith Observatory. This experience increased my motivation to study English. The other thing was interacting with students at UCLA.

Firstly, my trip to Griffith Observatory was one of my most memorable experiences in California. It took longer than I thought to get there because of congestion. In addition to that, we were unable to access the internet due to poor connection, and we became unable to contact anybody. And what was worse, we couldn't call Uber. Then I became worried about going back to the dormitory because staying overnight away from the dormitory was prohibited and even worse, I had to return by the curfew. We saw a long line for the bus and we stood in that line. Luckily, I found a taxi with some passengers going up the hill and I rushed to the taxi. Then I asked whether five people could get into it because the riding capacity seemed to be for only four people excluding the driver, but we had five. Another negotiation began after getting on the taxi. At first, we told the driver that we were going to get off when we were in the signal area. However, the driver told us that he could take us to UCLA, and I asked him about whether the fare was comparable to a Uber. The fare he told us was higher than a Uber but he told us that it was hard to catch a Uber and that it would take a long time there which wasn't a fact. After noticing we could use the internet, our taxi was still going because the negotiation wasn't done. Eventually, we could get off the taxi

and call an Uber. It was very difficult to negotiate with the driver and I felt that I needed to improve my English skills more.

Secondly, I really enjoyed communicating with students at UCLA. I tried to communicate with people using English at UCLA. I often went to the gym on campus, and one day, I played basketball with the students there. After that, I exchanged contact information with one of the students and made an appointment to play tennis with him later. After a few days, we played tennis. In addition to that, I could communicate with students when I asked many people to help me with my questionnaire. It was surprising for me that almost all the people I asked agreed to help me with my questionnaire. Furthermore, students often talked to me in elevators and study spaces. I thought this was one of the good aspects of American culture which differs from Japan.

Hence, I could experience many things throughout the UCLA program. Even though it was hard to do something in a limited period of time, these experiences were valuable for me. I learned that it was important to communicate with people for improving my own English skills. Everything I saw and heard made me feel refreshed and I could tackle many challenging things. Remembering these experiences, I'm going to try new things from now. I hope you can go to UCLA next year and I'm sure you can have wonderful experiences there!



Studying is interesting!

2年 對馬 唯

今回私は3週間のUCLA研修に参加しました。この留学が人生初の経験であったため、自分にどんな影響をもたらすのか、これからどんな3週間が待っているのか、小さな不安と大きな期待を胸に成田空港からアメリカに飛び立ちました。

研修前は、このような貴重な機会を活かして、自分の英語がどこまで通用するか試したいと思っており、少しワクワクしていました。しかし、アメリカに着いて1週間近くは現地の人の話すスピードに全くついていけず、さらに自分の言いたいことも英語で表現できなかったため、自信をなくしました。そこで、自分の考えていることを文で言い表せないときは単語だけで会話をしたり、ジェスチャーを加えたりし、相手に伝えようという気持ちを一番大事にしました。学校での授業の成果もあって、日にちが経つにつれて相手とまともな会話ができるようになったり、自分の言いたいことを自分自身の力で文章にして伝えたりできるようになり、これで自信を持ち直したことによって自分から積極的に誰かと会話をするようになりました。ありのままの自分に素直に向き合う大切さに改めて気づかされた研修となり、非常に良い経験となりました。

日本はグローバル化が進んでおり、これからますます英語が必要とされる社会になることは確実です。私は今現在、観光に関わる仕事に興味を持っています。外国の方々とのコミュニケーションを求められる観光の仕事には英語は必要不可欠です。今回の留学を通じて英語の楽しさだけでなく、難しさも学びました。この経験を肝に銘じ、日



本でも今まで以上に英語学習に力を入れていきたいです。また、この留学でアメリカの良さを感じる場面も多くありましたが、それと同時に日本の良さにもたくさん気づくことができました。将来、来日してくださった外国人の方々に少しでも日本の良さを自分の言葉で伝えられるようになりたいです。来日してくださった外国人の方々に「また日本にきたい。」と思ってもらうことが私にとって仕事のやりがいに繋がるだろうと思います。さらに、私は苦手なことに対して消極的になってしまうことがありました。しかし、留学先で現地の人々と会話をする中で、自分のチャンスはどこに転がっているか分からないことを学びました。これからは自分の中で新たな可能性に繋がることがあったり、何か新しい発見があったりするかもしれないため、苦手なことに対する機会ですえも大切に、積極的に取り組み自分で自分の可能性を閉ざさないように行動していきたいです。

留学で私はさまざまな刺激を受けました。この刺激を自分の糧に変えて、将来に繋がられるように頑張ります。最後に、この留学に参加させていただく上でお世話になった方々に心から感謝させていただきます。



異国にて

1年 石原 舞

私は今までアジア圏より離れている国を訪れたことが無く、日本と全く異なった国がどのようなものか見てみたいと強く思い今回のイギリス研修に参加しました。初めて降り立つイギリスは外観、人々、言語、食べ物、雰囲気などが日本と確実に違って戸惑いながらもこれから始める3週間のイギリス生活を想像すると興奮が止まりませんでした。このように始めは期待や憧れの気持ちを抱いていたのですが、勿論異国での生活は簡単なものではありません。私達はロンドンからかなり離れている自然が豊かで伝統的な美しい街並みのカンタベリーという都市の大学で授業を受けたり寮で生活をしたのですが、最初の方の授業でイギリス英語がアメリカ英語とかなり違うというのもあり元々英語を話したり聞くことが大の苦手だった私にとって、ついていけずかなり厳しい状況でした。さらに実家暮らしだったので一人何かをする、解決するというスキルを身に付けておらず洗濯や料理など手に負えず大変でした。そして一番苦勞した事が観光先での出来事です。

今回のイギリス研修は土日を観光に充てられたのですが、自分達で決めて自分達で行動するといった形だったので、何かあった時も自分達で解決しなければなりません。初めは、バスの予約を間違えて観光先に向かえなかったり英語表記の案内が読めずに迷ってしまったりでした。そんな時には道の人に聞く事が主だったのですが、そのような経験をした事



が無く恥ずかしくてまともに英語が話せない、何を言っているのか全く理解ができない、で戸惑ってしまっていました。しかし三週間も滞在して慣れてきたからでしょうか、授業で先生が何を言っているのか理解できるようになり、寮では家事を済ませてから自分の勉強の時間を作るようになりました。

た。そして次第に英語で話すという事に抵抗がなくなり学校や街での生活、観光先で何かあった時、困った時に自分で調べ自分から英語で聞きに行く、自分で解決するというスキルを身に付ける事ができました。これは私にとって大いなる成長となったでしょう。確かに私は研修に行く前に英語で話せるようになりたい！とも望んでいました。しかし留学は話せるようになる事だけが目的ではありません。見ず知らずの土地で見ず知らずの人々とコミュニケーションを取れる精神力を養う、他国から見ることで客観的に自国がどのような国なのかを比べながら学ぶ、知ることが大切であるとも気づかされました。皆さんも是非他国に訪れその国の独自の雰囲気を感じてみる経験してみたいかでしょうか。必ず成長できた、成し遂げられたと誇れるような何かを得ることができると思います。

なぜ英語を学ぶのか

1年 岩垂 香菜

私は人と話すことが好きです。特に、相手と共通の話題がある場合はいつも、ついつい話しすぎてしまいます。ある授業で、ネイティブの先生に私の地元である長野県のお祭りを知っていると声をかけられました。古くから行われている大きなお祭りではあるのですが、他県の人で初めてこのお祭りを知っているという人を見たので心が躍り、話したいことが頭にたくさん浮かびました。いつもならよく舌の回る私ですが、英語で話さなければならぬという制約のせいで、ただ相槌をうつことしかできず、私はやるせない思いでいっぱいでした。そして、これをきっかけにイギリスのカンタベリー・クライスト・チャーチ大学への研修に参加することを決めました。

初めての海外は、研修開始の1ヶ月前から期待と不安でいっぱいでした。初めて行く外国が大好きなイギリスでとても嬉しい反面、自分の英語は通用するのかという心配がありました。一緒にいた明海生に励まされ、頑張ろうと思いました。しかし、イギリスでの授業は想像以上に辛いものでした。やる気は人一倍あるのに、先生の言っている内容がわからないため授業に参加できず、ただその空間にいるという感じがしました。もっと難しいと思ったのは、留学生同士でのディスカッションです。先生の指示を聞き取ることができないので何を話せばいいのかわからず、また同じクラスの日本人留学生たちの英語のレベルの高さにプレッシャーを感じ、黙り込んでしまうことがありました。人見知りをする私には近くの人に聞く勇気もなく、みんなが話し合っているのを聞いてなんとなく理解することしかできませんでした。クラスの人の助けもあり、なんとか3週間諦めずに頑張ることができました。そして、イギリスで出会った彼らからは、英語に関するだけでなく、人と関わることの大切さを教えてもらいました。ほんの数日間しか話すことはでき

ませんでした。一生忘れることのない大切な人となりました。

正直にいつてしまえば、たった3週間の滞在で、同じ学校の友達と生活し、学校へ行く
と日本人の留学生がたくさんいて、いつでも頼れる人がいるという環境は、意志の弱い私
にとって、英語の技術を磨くには不向きでした。しかし、私はそこで、言語はコミュニケー
ションのツールの1つであることを知りました。私は話すことが好きです。日本人以外と話
すには言語の壁を乗り越える必要があります。私が英語を学ぶ理由はここにあると気づか
されました。日本にはわからない、多くのことを与えてくれたこの研修はとて有意
義なものでした。



Studying in the U.K.

1年 大田 貴美子

2019年8月17日から9月8日までイギリスのカンタベリーにあるカンタベリークラ
イストチャーチ大学に行きました。台風のため、予定日に帰国できず実際は9月9日ま
で寮に泊まりました。

私が現地で体験し、学んだことは、イギリスの歴史です。私たちが暮らしたカンタベ
リーの街中からも長く美しい歴史を感じました。古くに建てられた建物を今でもそのま
ま利用しているため、まるでその建物が建てられた時代にいるかのようでした。この体
験からイギリスに住む人々は歴史をとて大切にするのだなと感じました。

この海外研修を通して感じたことは、寮を利用した海外研修とホームステイとは自

由時間の使い方や、英語を使う頻度などまったく違うということです。ホームステイでは学校だけでなく家でも現地の方々と英語で話す機会が増えるので、かなりスピーキング力が上がる一方、やはりホストファミリーにスケジュールを合わせなくてはならないため、自由時間は思うように取れないです。また、寮では、放課後などの空いた時間に観光やショッピングなど自分がしたいことができますが、気の知れた友人と過ごす時間がどうしても多くなってしまったため、ホームステイ程のスピーキング力は上がらないなと思いました。そのため私は寮よりホームステイを推奨します。

今回宿泊した寮の間取りを図にしてみました。部屋はそれほど狭くもなく、過ごしやすいですが、洗濯物を干すためのスペースなどがなかったため洗濯ハンガーなどを持って行った方が便利だと感じました。さらに、同じ階に同じような間取りの部屋がもう二つあり、説明会では同じ階にいたほかの部屋の方と接する機会があるかもしれないと伺っていたので、現地の学生とつながりが持てるかもしれないと思っていましたが、現地の方と接する機会はそれほど多くありませんでした。しかし、同じように海外研修としてカンタベリーに来た日本人学生と接する機会は多くありました。



カンタベリーでの三週間

1年 佐久間 亮汰

私たちは約3週間のイギリス短期留学に行ってきました。その期間に楽しいことや、素敵な出会いなど多くの体験ができました。

私は研修期間中の学校がお休みの日にロンドンやリーズ城などイギリスの観光地を多く周ることが出来ました。どこも素敵な場所なのですが、私は個人的にイギリス滞在期間中に最も楽しめた場所は滞在地でもあったカンタベリーでした。カンタベリーの町並みはとても綺麗でありカンタベリーいちの大通りには大型スーパーや多くの飲食店や洋服屋があったりと娯楽があります。さらに大通りの真ん中には圧倒的存在感を放つ世界遺産にも登録されているカンタベリー大聖堂があったり、少し大通りを離れると自然豊かな森や川があったりとカンタベリーに居るだけで何でも楽しめることが出来ます。その中でも私のお気に入りの場所は、大通りの出入り口付近にある公園です。そこは花畑があったり、底が見えるほど綺麗な水が流れる川があったりと日本ではなかなかない場所です。私はそこで週3回ほど学校終わりに川に足を付け読書をした後にお昼寝をするのが日課になり地元民のような日常を過ごしていました。イギリスと言えばロンドンであり、ビックベンやハリポッターの9と4分の3番線など多くの観光地がありますが、もし、この記事を読んでいる方の中でカンタベリーに留学予定のある方は、是非滞在地のカンタベリーを隅々まで歩き魅力ある景色を楽しんでもらいたいと思います。



そして、約3週間のイギリス留学で私は多くの友人を作ることが出来ました。同じ大学の留学のメンバーも半数は関わりのなかったメンバーでしたが、共同生活を通じてコミュニケーションをとり仲良くなる事が出来ました。それだけでなくイギリスの大学で同じ留学生として来ていた日本人の学生とも関わる事が出来ました。クラスの授業やスポーツ交流会などを通じて仲良くなり、昼食を一緒にとったり、学校終わりに遊びに行ったり楽しんだりするだけでなく、みんな留学に来ているので英語に対して意識が高く、英語の学習についてであったり、先にカンタベリーに来ていた先輩方から授業内容やカンタベリーの過ごし方や電車バスを安く利用する方法など多くのことを教えてもらい、またそれを後に来たメンバーに私たちが伝えていくという伝統に関わる事が出来ました。その為留学期間中に出来た友人は仲が良く、近畿や九州などそれぞれバラバラの場所に住んではいませんが、未だに連絡を取り合ったり、会ったりと良い友人に出会う事が出来た素敵な留学だと私は思います。

留学を通して成長する

1年 重岡 メリアン明子

私は2019年の夏にイギリスのカンタベリーというところに約3週間の海外研修に行きました。私は以前から海外へ留学したいと考えていて、自分の英語がどれほど海外で通用するのか知りたいと思い、今回の海外研修に参加しました。

授業では日常的に使うフレーズや単語を学び、英単語をジェスチャーでほかの人に伝える



るなどといったゲーム方式の授業が多くありました。また、会話する際によく使われる極限形容詞について学びました。その中ですでに知っていたフレーズや単語はありましたが、それ以上に知らない単語やフレーズのほうが多く、授業を通して表現の仕方や、会話の幅が

広がったと感じました。そのほかに、カンタベリーについて調べたり、町の人にインタビューをしたり、ビールの原料となるホップについて学び、そして収穫をしたりと、カンタベリーならではの授業もありました。また先生方はとてもフレンドリーで話しやすく、面白いお話をしてくださったり、おすすめの観光地を教えてくださいと、とても親切で優しかったです。

放課後や休日に外出をして現地の方と交流をしたとき、誰かが学校や街で困っていると必ず声をかけて助けてくれる優しい人がたくさんいる印象ができました。たとえばオススメのお店をお尋ねしたときには、お店の名前を教えてくださいただけではなく、お店へのアクセス方法を教えていただいたり、オススメの料理やその写真を見せていただいたり、求めている行動だけではなく、ほかにも役立つ情報をいただけたりと丁寧に助けてくださった方が多かったです。私もこのように優しく手を差し伸べられるような人になりたいと思いました。

この研修を通して感じたことは、とりあえずなんでもよいので言葉にして伝えることが大事だと思いました。伝える努力をすれば相手も私たちが伝えたいことを理解しようとしてくれるので、話すことを恐れずに伝えるという経験を積み重ねていき、そこから少しずつでもいいので慣れていき、学んでいくことが大事だと思いました。また外国に行くとき必ず日本のことについてさまざまなことを聞かれるため、自分の国の政治や歴史、文化そして流行について幅広い知識を身につけなくてははいけないと思いました。そのためには普段からニュースを注意深く聞き、本をたくさん読もうと思いました。また、自分の国だけではなく、海外のニュースや流行なども知っておくと会話の幅が広がると思うので、今後はその辺を気にして生活をしたいです。

憧れのイギリス

1年 武藤 美優

私は8月17日～9月8日の3週間、イギリスへ海外研修に行きました。以前からオシャレで豪華なイギリスの建造物や街並みや文化に興味を持ち、実際に目にするとなますます惹かれていきました。日本とイギリスは建造物に使われている材料や様式など一目見ただけで作りが全く違うことがわかります。日本は伝統的に木造建築が主流とされていますが、イギリスをはじめとする西欧諸国などの外国建築はレンガ造りや石造りが主流です。

どの建造物も豪華で立派で私が憧れていたそのものでしたが、そのなかでも最も印象に



残った建造物は「リーズ城」です。自然豊かな広い庭を抜けると湖に囲まれたお城が見えます。東京ドーム 43 個分もある広い敷地はイギリス南東部ケント州に位置し、「世界で最も美しい城」と言われています。このお城は 12 世紀にノルマン人が建て、イギリスの王族や貴族が代々住んで最後にアメリカの大

富豪女性が住み、リーズ城保存団体に譲渡されました。150 年もの間 6 人もの女性に所有されたようです。城の中も見学でき、豪華で広いたくさんの部屋や小さな教会や書籍部屋やワイン倉庫などがありました。様々な種類の木々や花もとても美しくて印象的でした。お城や庭の他にもアスレチックなど楽しめるスポットがいくつもあり多くの人でにぎわっていました。

また、有名な世界遺産のビック・ベンやロンドン塔やストーンヘンジやカンタベリー大聖堂やコッツウォルズも行きました。どの場所も映画の世界のような美しい建物や遺産が連なり、本当に綺麗で感動しました。

カンタベリークライストチャーチ大学での授業では、教科書の英文や単語、ジェスチャーゲームや、イギリス文化や有名な観光地、イギリスと日本文化の比較についてしました。特にイギリス文化についての授業が印象に残っていて、イギリスで有名なお酒を楽しむ場として有名なパブや、社交場の一つであり、礼儀作法や交流を深めるお茶を楽しむアフタヌーンティーがあり、街を歩いているとその様子が多く見られたので、イギリスの人々が伝統を大切にしていると思いました。また、イギリスの博物館や美術館は世界各国から集められた歴史的に価値の高い展示物もほとんどが無料で見ることができ、これは誰もが見ることができるようにしたこと



や伝統が刻まれているらしく、イギリスの人たちが文化を大切にして、伝統を守ろうとする気持ちも感じました。最後の授業で先生が、たくさんある選択肢の中から自分のやりたいことを早く見つけて、それに向けて努力することが大切だと教えていただき、とても印象に残りました。

この海外研修でイギリス文化や生活習慣などイギリスのことはもちろん、英語は世界共通語だから会話できる人の幅も広がるし、違う国の人と交流することによって、文化や知識など自分の知らなかったことを新たに知ることができると感じました。また、英語で会話をもっとしたいという気持ちや英語の学習に対する意識も高まり、英語力をもっとつけないといけないなと感じています。この留学で新たに学んだことや感じたことを今後の生活に生かして、有意義な生活を過ごしていきたいと思います。



海外英語研修 アルバータ大学（カナダ）

自分を変えたきっかけ

4年 堀江 志保乃

私はカナダのエドモントンにあるアルバータ大学に8か月間留学をしました。最初の4か月間の語学学校に通いました。1か月半が1学期分で2学期分通いました。最初のクラスは12人くらいの少人数クラスで、クラスの約半数がサウジアラビア人、残りが日本人といった構成でした。クラスではスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングを満遍なく学ぶことが出来ました。しかし学期末にある期末テストではライティングを重視した採点だったので最後のほうはライティングの対策が授業の主でした。

このクラスで感じた事は授業中に発言するのはほとんど日本人ではなかったです。日本では何となくクラスで発言する事は恥ずかしい、プレッシャーだという認識がありますが、それは日本特有のものだと気づきました。カナダでは生徒は思った事を何でも口にし、質問があればすぐに聞きます。その為、授業が予定通りに進まず目標進度に追いつかないことが多々ありますが、先生もそれを普通と捉え、自由に余裕をもって教えている様子でした。先生が授業中に頻繁に私用の電話をしていた事は驚きましたが、それを含め、カナダの自由で積極的な授業スタイルを良いと思いました。また私自身もクラスメイトに感化され、授業中に発言する事への抵抗はなくなりました。そしてその後1週間の休みがあり、次のクラスへ進みました。そこでは16人生徒がいましたが、うちの14人は日本人でした。さらに来ていた日本人のほとんどが短期留学で1か月だけの滞在だったのでやる気もなく一緒に勉強する事はストレスでした。また、クラスの先生もタイムマネジメントが上手ではなく勉強内容は他のクラスからかなり遅れを取っていました。そこで私は先生と何度か授業内容、クラスメイトについて何度か話





し合いをしましたが、全く改善されることはありませんでした。その後語学学校のオフィスにも相談しましたが何もしてくれませんでした。この出来事は留学期間で最も辛く、私にとって一つのカルチャーショックでした。普段日本で何かサービスの不備があったら、カスタマーサービスに連絡し、

何か処置をとってもらおうという事が自分の中で当たり前になっていましたが、これが日本外ではそうではないという事を感じました。改めて日本のサービスの良さを実感しました。

そして、語学学校を終えた後、アカデミッククラスで私はドラマクラスを取りました。ここでは正規の学生と同じ授業を取るのにより高い英語力を求められます。ドラマクラスでは、演技とプレゼンテーションの基本を学びました。歌を歌ったりポエムや本を感情的に読んだり私にとってはとても刺激的で新しい授業でした。すべてのクラスを通して自分を出し積極的に行動していくことの大切さを学ぶことが出来ました。8 か月という短い期間でしたが、日本とカナダそれぞれの良さ悪さを実感し、文化の違いを知りました。そしてこの経験を今後につけていきたいです。



異国の地で

4年 吉澤 美由紀

私はカナダアルバータ州エドモントンにある、アルバータ大学に約8か月間留学に行きました。留学をしようと思ったきっかけは、高校生からの1つの夢が長期留学だったからです。高校時代に、オーストラリアとアメリカに短期留学を経験し、異国で学ぶ楽しさや、現地の人々との交流がとても新鮮でした。それから、長期留学ができる大学を探し、明海大学に入学しました。また、大学に入学してからも、さらに大学生生活を有意義にしたいと思い、長期留学の夢が大きくなったのがきっかけです。

カナダに出発する前は、あまり実感と不安はなく、むしろこれからの生活が楽しみでした。現地につくと、これからカナダでの生活が始まるのだと実感しました。寮に入るまでの数日間はホテルに滞在し、カナダ人はもちろん、様々な国の旅行者やこれから同じプログラムに参加する日本人と出会いました。それから、すぐにアルバータ大学での学生生活が始まりました。

最初の4か月間はELS（語学学校）に通い、レベル別のクラスに振り分けられ、基礎英語能力の向上に努め、また大学の授業に向け、4技能（Reading, Listening, Writing, Speaking）の強化をしました。クラスメイトは、ユニークで、国際色豊かな人達で、とても楽しい授業でしたが、ELSの建物は誰でも行き来できるので、貴重品の管理が大変でした。このELSで、たくさん友人ができ、また授業を通して文化の違いや考え方、国柄を学び、刺激的な時間でした。

残りの4か月は、アルバータ大学での授業を履修しました。私は、言語学を聴講で選択し、クラスの人数は約60人、大講義室で行われ、教授がパワーポイントを使って授業が行われました。アルバータ大学の生徒は、勉強することに熱心で、毎回授業中に必ず、質問をしていました。日本の大学では、生徒が授業中に発言することはあまりなかったので、それに最初は驚きました。また、図書館はテスト前になると常に満席で、24時間使用可能です。他に、部活動やサークルがあり、私はJCC（日本語会話クラブ）に毎週参加しました。英語と日本語を喋る時間が分けられてあり、英会話の上達もでき、特にこのサークルで友達の輪が広がりました。

世界には色々な人がいて、その人はその人なりの考えや意見を持っています。授業など会話をする中で、私もしっかりと自分の意見を言えるようになりたいと思いました。特に日本人は謙虚なので、自分の思っていることはしっかり言葉にしなければならないし、自分に自信を持つことは大切だと学びました。この留学は私にとって刺激的で、有意義で、これからの私に繋がる留学でした。一人で生活すること、学ぶことは、自分自身の成長にも繋がりました。もし、留学を考えている人がいるならば、私はおすすめします。自分の

頑張り次第で結果は変わってきますが、絶対に良い経験になると思います。大学生活が有意義になるでしょう。



成長

3年 吉永 祐太

今回、僕は2019年4月26日から12月25日まで約8ヶ月間カナダのアルバータ州、エドモントンにあるアルバータ大学に長期留学していました。この長期留学を決意したのは、2年次にカリフォルニア大学ロサンゼルス校（通称 UCLA）に短期留学したことがきっかけでした。UCLA では語学学校に通い、英語での授業を受講し、アメリカの文化や若者言葉などを学びました。このようなことは日本で学ぶこともできますが、実際に現地に滞在していると、授業で学んだことを直接体験できる機会がたくさんありました。また、自分の語学能力が高まるだけでなく教養も増やすことができ、さらに英語で何かを学びたいという気持ちが芽生えたことが、今回の長期留学の決意につながりました。

アルバータ大学では RLS100 という運動学の授業を履修しました。教室の規模はそれほど

大きくなく、60人ほどが一緒に授業を受けていました。教授は授業開始前に教室に到着し、学生たちと会話を楽しんでいました。僕も授業開始20分前に着席し、その教授とコミュニケーションを取っていました。授業内容はとても興味深く、探究心を刺激してくれました。毎回の授業では必死でノートを取り、授業が終わるとその教授によく質問していました。

また、授業内ではその教授の持論について活発に議論することもあり、他の学生との意見交換ができる貴重な経験ができました。最初の頃は英語が聞き取れるかどうか不安で、他の学生に話しかけることがあまりできませんでした。しかし、挑戦しないと何も得るものはないと思い、勇気を振り絞って、目の前に座っていた学生に話しかけたことは今でも鮮明に覚えています。このことがきっかけで、我々はお互いの意見を共有するようになり、授業の要点をつかむようになりました。彼のおかげで、講義の内容が徐々に理解できるようになり、講義内容に関する質問も増えていきました。その質問を教授にぶつけることで、さらに勉強に対する意欲が飛躍的に高まりました。授業では学生の多くが積極的に発言しており、僕も勇気を振り絞り発言をし、懸命に授業に参加していました。

授業では毎回、予習と復習が必要でした。毎週の課題では、指示された図書を読み、クイズに回答することが求められていました。その課題図書の内容はとても難しく、また運動学の専門用語も多く、10ページ読むだけで丸一日かかったこともありました。課題をこなすことは非常に大変でしたが、課題を終えた後の達成感は何にも代えがたい充実した気分でした。8ヶ月間、日本では味わうことのできない貴重な経験が数多くできました。授業内で積極的に発言できたおかげで、人前で自信を持って発言できるようになりました。日本の友人が誰もいない環境で、英語を使って意見を述べることができたのは、成長の証です。この留学では、語学力の向上だけでなく、精神的にも鍛え上げられました。この長期研修が無事に終了するまで、数多くの人たちのサポートがありました。このかけがえのない経験をさせてもらった両親、お世話になった大学の先生方や職員の皆様の期待に応えられるよう勉学に勤しみ、残り1年間の大学生活を有意義に過ごしていこうと思います。



GSM フィールドワーク参加報告

研修で学び得た文化や言語における考え方の相違

2年 藤本 華

海外へ行くということ、それは“他文化に触れて学ぶ”ということなので、今回のこのシンガポール研修においても、どのような点で違いがあるのかはある程度予測して参加しました。しかし、実際に訪れると、想像を遥かに超える数の相違点を知ることとなり、研修期間を経て非常に多くの学びを得ることができました。

第一に、シンガポールへガムを持ち込むことが法律として禁止されていることから今回の学びは始まりました。環境への取り組みに徹底している様子が、一目見ただけでも分かるほどの街の綺麗さを実感し、世界的に重視されている環境問題への取り組み方の模範であると感じました。また、現地に着いてからは、お店の看板等の表記は中国語が主であることを目の当たりにし、世界の共通言語とも言われる英語の使用頻度が少ないことに気づきました。これは、シンガポールの人々の約半数が中華系シンガポール人であることが一つの理由です。それに加えて、現在、中国語話者は英語話者に続いて多くの割合を占めているとされています。そのため、中国語が主であるというのも、英語ができることは既に前提条件であり、英語に次ぐ中国語も話せることが望ましいことを示す、先駆的取り組みであることを痛感しました。近頃、英語学習を必須としている日本の取り組みの一步先を行くシンガポールの考えや実態を知れたことは、語学を主として学習に励んでいる私にとってとても貴重な機会となりました。

他にも、数日間滞在する中で、現地のショッピングモール等にあるフードコートでの座席の確保の仕方や地下鉄のカードの購入の仕方等、日常生活を送る中で必要となる日本



とは異なる習慣も数多く得ました。さらに、複数の施設を視察する中で、マリーナベイサンズを視察できたことは、IR施設の及ぼす計り知れない経済効果を知るきっかけとなり、日本でも建設が考えられている理由を以前よりも明確にすること

ができました。一方で、日本の中にはこの IR 施設の建設に反対の声があることも同様に、理解を深めることができました。施設一つにおいても、国の考え方は異なり、双方の思考を学ぶことにはとても意義があると感じました。

私は将来、英語を使った職業に就きたいと思っています。特に、通訳や翻訳の仕事に興味があります。どちらの職にも共通して言えることは、文化や言語に対する考え方の違いをいかに幅広く理解しているかが重要であるということです。もちろん、現在の社会情勢を学ぶ上でも、各国の相違点を知ることは欠かせません。日々更新されていく情報に対応するにあたって必要となります。このシンガポール研修で学び得たことを今後の学習に活かすと共に、より多くの国に関しての知識を身につけていきたいと思います。

ひと夏の経験

3年 小松 朱里

2019年の夏休みに三週間、静岡県伊豆市にあるラフォーレリゾート修善寺のインターンシップに参加させていただきました。私は将来、接客ができる仕事に就きたいと考えていて、ホテルで働くことで実践的なホスピタリティを学ぶことができると思い、ホテルへのインターンシップの参加を決意しました。また、数あるホテルの中からはなぜラフォーレリゾート修善寺を選択したかという、慣れない環境に身をおくことでよりたくさんの経験ができると考えたからです。

ラフォーレリゾート修善寺には広大な敷地内にホテルやレストランなどがあり、その中で私は伊豆マリオットホテル修善寺のフロントに配属されました。フロントでの仕事内容は、お客様のお出迎え、お部屋までのアテンド、清掃、ルームサービスなどです。フロントで働いたことで、学んだことは二つあります。

一つ目は、自分から積極的に行動することです。私は人の顔を伺いながら行動する消極的な性格でした。しかし、お客様の視点になって考えてみて



変わりました。お客様にとっては特別なひと夏のご旅行です。お客様の伊豆での思い出に、記憶に残るようなおもてなしをすることが伊豆マリオットホテル修善寺の意義であると私は考えました。そのために、私のできることはちょっとした気遣いをお客様にかけることです。お客様が外からいらっしゃって暑そうにしていたらお飲み物を入れて渡す、運転後で疲れていらっしゃったら私がお子様とキッズルームで遊ぶなどしてもらえたら少しでも思い出に、記憶に残るのではないかと考えました。これらを実践して、自分から積極的に行動することの大切さを学びました。就職活動でも、社会に出てからも自分から積極的に行動するという事は大切なことなので心に誓いたいと思いました。

二つ目は、チームの大切さです。ラフォーリゾート修善寺内には、明海生以外にも専門学校生や他大学からのインターン生が 50 名ほどいます。9 割が 1 年生で自分よりも年下でした。しかし、私よりも 10 日ほど先にインターンシップに参加しているので仕事の出来具合の差は歴然でした。初めのころは年下の子に負けたくないと思い、いい刺激を受けていました。しかし、わからないことはすぐに社員の方に聞くのではなく、お互いのわかることを共有し考えて協力するようになりました。また私よりも後からインターンシップに参加した方もいるので、三週間と短い期間でしたが、教える立場も経験することができました。そして休日には、お客様におすすめできるように修善寺温泉や熱海などの観光地に仲間と実際に足を運ぶこともありました。慣れない環境でインターンシップを終えることができたのはチームの支えがあったからだと思います。大学生活でも友達やゼミの仲間などいい刺激を受けながら助け合いたいと思いました。

浦安警察署での 5 日間

3 年 田中 虎丸

私は今年の夏に 5 日間、浦安警察署でのインターンシップに参加しました。私は兼ねてから公務員という職業に興味があり、その中でも市民の安全を守る最前線に立つという重役を担うことのできる警察官という仕事に関心を持ちました。そこで、実際にインターンシップに参加して職業体験をすることで自らが警察官として働くビジョンを深めたいと考え、当インターンシップに参加させていただきました。

たった数日間という短い間での体験でしたが、実に多くのことを学ぶことができました。まず初めに警察官として働くうえで大切な「献身の心」を学びました。これは警察官の方々が日々業務を遂行される中で必ず持っている考え方の 1 つです。それをもっとも強く感じたのは、実際に防犯活動に参加させていただいたときでした。私たちインターンシップに参加している学生たちは、防犯活動の一環としてピラ配りに参加させていただきました。

とても大変な作業でしたが、それでも1人でも多くの方が犯罪の魔の手にかからぬようにと懸命に声掛けをし、地域の皆様から「ありがとう」という感謝とねぎらいの言葉をいただきました。その後の説明で、警察官が身を挺した仕事だとしても市民の皆様からの「ありがとう」という言葉1つでやってよかったと思えるというお話を聞かせていただく中で、「献身の心」を持って行う1つ1つの業務が誰かの安心・安全な暮らしにつながるというやりがいと誇りを感じることができました。そして、働くうえで「志」を持つことの重要性を学びました。5日間の中で、お忙しい中性別、役職、部署の垣根を越えて多くの方々にお話しを聞く機会がありました。もちろん、警察官という仕事を自分のキャリアとして選んだ理由は人それぞれでしたが、それでも皆さんに1つだけ共通している部分がありました。それは、仕事をやるうえで必ず自分の中に「志」を持つということです。例えば、鑑識で働くのであれば犯罪の糸口を見つけることで被害者の方々が1日も早く悲しみから救われるようにと考えたり、交番勤務であれば事件・事故に即座に対応することで事案の深刻化を未然に防ぎ市民の方々の安全を守ろうと考えたりすることで自分の行っている業務に対して常に自信を持ち、モチベーションを保つことができます。こうして1つ1つの積み重ねを大切にすることで誰かの笑顔を守り続けることができると知り、私はその考え方に大変感銘を受けました。

このように、たった5日間という短い期間の中でとても多くのことを学ぶことができました。今後、私が社会人として人生を歩んでいく際にこの経験は必ず役にたつと私は確信しています。



GSM ボランティア

2年 田中 結菜

私は昨年夏、シンボルロード沿いの未使用地におけるガーデニング作りにボランティアとして参加しました。初めて自分たちが担当する場所を見た時はとても驚きました。なぜなら、その場所には背の高い雑草が生い茂っていて一切土が見えなかったからです。そこ

で、まず私たちは長く伸びた草をカットすることから始めました。その後には、その短くなった草を大まかに抜いていきました。さらに、土を掘り返し、小さな石から大きな石までを取り除く作業をしました。石を取り除くために土をふるいにかけてのですが、この作業はとても地道な作業で大変に感じました。中には一人で持ち上げられないほど大きい石もいくつかありました。順調に作業は進んでいましたが、約 1 か月間、作業ができない時期がありました。その約 1 か月後には、最初に見た時と同じくらいまで雑草が生えてしまったため、作業はふりだしに戻りました。再度、草を刈り、草を抜くことをし、その後また除石をしました。それから土地を耕しました。桑を使って耕すことには慣れていなかったため、大変な作業の 1 つでもありました。主に休日や、放課後に作業を行いました。特に休日に作業をしていると通りすがりの方々に「ありがとう」、「ご苦労様」、「頑張ってるね」など多くの温かい言葉をかけていただきました。普段ボランティア活動することはほとんど無く、地域の方とも接する機会は中々ないためとても新鮮に感じました。

ボランティア活動の後半では浦安第二湾岸の会の方々と休日に花の買いに行きました。花を選ぶ際には、季節を考えて長持ちするような花を買いました。日常で花を買ったりすることがなかったため花に関する知識がほとんどなかったのですが、このボランティア活動をする中でどの花が寒さに強いかがあったり、どの季節にどの花が咲くのかなど様々な知識を得ることができました。花を購入したその日は雨が降っていたため後日花を植えることにしました。花を買いに行った次の週には土の上に防草シートを敷きました。その後防草シートに花の数の分を、配置を考えたうえで穴をあけ、花を植えました。花を植え終わった時には達成感を感じることができました。普段は地域に貢献したことは全く無かったのですが、このボランティア活動を通して、浦安市の景観の向上に貢献できたのではないかと思います。実際に作業をしていると、花の写真を撮る人もいました。ボランティア活動をすることで地域の人とコミュニケーションをとることができたり、地域の役に立つことができたりと、他にも様々な体験ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。



複言語・複文化教育センターの活動報告

Meikai Plurilingual & Pluricultural Education Center (MPPEC)

MPPEC and Language Learning Go Hand in Hand!

MPPEC has been open for three years and it has transformed the way Meikai students learn English. In fact, MPPEC has become the heart of English language education, particularly for the first- and second-year students. During the Integrated English course, first-and second-year students are expected to improve their fluency and vocabulary on a range of global topics. While the English Zone continues to be a place to build fluency, it has become more than that. Through events, the monthly MPPEC Challenges and the numerous books and resources available students are expanding their English horizons. Students often eat lunch in the reception area and chat with instructors, creating a lively and active space. More and more students are dropping by MPPEC to get help with assignments, to practice for EIKEN or TOEFL, and to take advantage of all the educational opportunities we offer.



Integrated English I and II

This has been an excellent year for the first-year students in the Integrated English class. The students learned about space, nature, art and music, and many other topics. They have improved many of their language skills, but there was a huge improvement in their speaking ability and vocabulary. Many of the classes did research projects, and the students showed great creativity



in their work. Each person had the opportunity to show their strong point in English, whether it was in speaking, listening, reading, or writing. We look forward to having the first-year students in the second-year I.E. program where they can continue to build their English communication skills and become confident English speakers.

Integrated English III and IV

This year, second-year IE students focused strongly on developing their communicative English skills by engaging with a wide range of thought-provoking topics. They were also able to expand their vocabulary while completing Eiken Pre-1 level style speaking assessments and practiced advanced conversational skills such as negotiating meaning and paraphrasing in English. At the end of our final semester this year, all second-year IE students took part in a number of activities, which gave learners an opportunity to use the skills they had acquired throughout the year. Over the course of this academic year the vast majority of second-year IE students have demonstrated a noticeable improvement in their confidence and fluency when communicating in English. We congratulate our students on a successful final year of the IE course and wish them all the best in their future language-learning endeavors.





English Zone

The English Zone at MPPEC is without a doubt a great afternoon destination for Meikai University students of all backgrounds, departments, and areas of interest to come and actively engage with the English language. In addition to offering a wide variety of conversation starter cards filled with hundreds of interesting topics and questions, the English Zone also features an ever-expanding selection of books, graphic novels, vocabulary builders, games, music, movies, and fun activities to support your English language learning in ways that are enjoyable and interactive. Students may also want to visit the English Zone to ask for extra assistance from a teacher on a homework assignment or prepare for a test, or perhaps they may want to try completing an English Zone Challenge which focuses each month on a different cultural theme



through the use of vibrant pictures and apps. With all this opportunity for active engagement and ways to grow as an English speaker, there is surely something for everybody in the English Zone: come see us today!

Events at MPPEC in 2019

Each year the P&P Education Center in cooperation with the English Department hold several big events for students. These events are an opportunity for students to learn new things, meet many new friends, and to challenge themselves in developing their English Skills and abilities.



Welcome Party

Every year in April, a Welcome Party is held in the English Zone. As with other events in MPPEC, students from all departments are welcome to attend this interactive event. The Welcome Party is a great chance to meet the P&P instructors and enjoy English in a comfortable atmosphere. Both students and teachers had a wonderful time at the Welcome Party. It set a very positive and educational tone for the rest of the year.

Halloween Event

Halloween with its deep-rooted history in Ireland and Scotland is becoming increasingly famous and popular all over the world including Japan. In the English Zone, a Halloween event is held annually. This event is very educational, but also very fun. Some of the activities this year

included, but were not limited to: The Halloween Historical Quiz and 20 Questions Halloween Interview Activity, the Halloween Song Vocabulary and Listening Activity, the Candy Toss, the Mummy Wrap, and the Choose Your Own Destiny Halloween Movie. Every year this event is becoming even more popular and this year, 60 students participated.

International Fair

The International Fair has a long tradition at Meikai University. Now with the MPPEC Multi-Purpose Zone, students are able to present in a space designed to show off their talents. This year, 32 students presented on a variety of topics, including study abroad, foreign countries, and other interesting subjects. Over 120 people listened to these presentations over the three days. International Fair is a wonderful way for students to develop confidence in presenting in English. All students who participated deserve a pat on the back for their efforts. We hope more students will join us next year.





Independent Study

When you are at home during an extended break from school or on a long train ride with some time to spare, it is a good idea to use that time to study independently and sharpen your English language skills. In fact, during these times when you are not in class you have the best opportunity to continue improving and expanding your English language ability while also reinforcing the skills you already have. Taking time to study on your own gives you many other great benefits as well: independent study gives you the freedom to choose the sources for learning that you want and helps you become more familiar with the approach to learning that you think is most enjoyable. Whether you choose to read comic books, use language apps, social media, music, or movies and movie scripts, you are empowered with the ability to choose to learn how you would like to learn, to set and achieve your own goals, and feel a greater sense of accomplishment and motivation as your English continues to improve.



Intensive Course

Spring Vacation, 2020 began with the annual English Intensive Course. For 10 days, students from departments across the University come together to practice English conversation and presentation skills. We had a great time singing for pronunciation, playing games, and learning English through interesting materials. This year we had students from diverse departments like HT, Japanese, and Real Estate join students from the English Department to practice speaking English, make new friends, and have fun presenting on topics that ranged from Okonomiyaki to Olympic trivia. If you're interested in joining us next year to make new friends and build English skills that can help you in your career, be sure to come and sign up in December!



第 12 回明海大学英語スピーチコンテスト報告

The 12th All-Meikai Oratorical Contest

The Oratorical Contest currently comes under the umbrella of the P&P Education Center with the cooperation of the English Department. Students can present in the traditional speech format or in a multimodal format (a TED-style presentation). We were very excited to see the number of participants increase this year. Students ranged from first year to fourth year and represented a number of departments. Read further to read the winning speeches by Takaaki Kobayashi, 4th year (multimodal) and Iori Iwadate, 1st year (traditional).



First Place (Traditional)

Good Ways to Stay Motivated to Learn English

Iori Iwadate (1st Year)



Recently, we often hear the word “Internationalization”. Actually a lot of countries have to be internationalized. For example, lots of tourists come to Japan, and of course they have different cultures and mother tongues. If we can’t communicate with them, they don’t form good impressions about Japan. As a result, the Japanese economy will be worse. According to a 2013 government survey, in Japan, on average over one million tourists come to Japan annually, and they spend one point three billion yen! This means if they don’t come to Japan, we lose one point three billion yen! That’s why Japan must be an

international country and we need to speak other countries' languages. So many Japanese are learning other countries' languages such as English or Chinese. Sometimes they say, "I don't know how to improve my English." I thought I should introduce how to improve our English abilities, but I'm still on my way to learning English, so I can't do it. They also say, "I can't keep up my motivation to learn English." So, in my presentation, I'm going to introduce "Good ways to stay motivated to learn English."

There are a lot of ways to stay motivated to learn a language, but I will recommend three ways. First of all, don't forget the reason why you want to improve your English. In other words, please have a clear purpose to learn English. If you have a clear purpose to learn, you can focus on your learning and you will feel you want to improve more and more. As a result, your English will improve and you can get more motivation.

Second, I recommend you to find a person you want to talk with in English. The person could be a foreign person or your friend or a famous person or teacher or anybody. If you find such a person, you will really want to talk with the person and you will be motivated to learn. If you can talk with the person, you will feel happy and stay motivated to learn English. For example, I go to an event named "Salon Du Chocolat" every year. At the event, I can talk with famous people who make chocolate and they speak English fluently. Two years ago, I found a person I wanted to talk to at the event. I tried to talk with him but I could say nothing. So I studied English and the next year I tried to talk with him again. At that time, I could talk with him only a little. By talking with him, I could increase my motivation to learn English. If you want to find such a person, I recommend you join some event and if you can find that person, your motivation will increase. Let's join some events and find a person!

Finally, don't be afraid of making mistakes. When you make a mistake, you may lose your motivation. But as you know, even when we are talking in our mother language, sometimes we make mistakes. So we don't need to be perfect English speakers. Rather, making mistakes is really a good experience. Steve Kaufmann, a YouTuber who can speak twenty languages said, "mistakes are good and they don't bother you! You make mistakes and make them again... that's the best way to learn!" I agree with this. In fact, I still make mistakes and I'm still learning from them That's why I continue be motivated to learn. So



let's make mistakes!

In conclusion, if you lose your motivation to learn English, have a clear purpose, find a person that you want to talk with and don't be afraid of making mistakes. Please just get out into the world and try to use your English! Then you, too, can improve your English significantly! Let's enjoy communication with people from all over the world!

First Place (Multimodal)

What needs to be done for Meikai students to improve their English skills

Takaaki Kobayashi (4th Year)



Hi everyone! My name is Takaaki Kobayashi, a fourth-year student in the English department. Today, I have questions for you. Do you think the education system at Meikai could be better? Are you satisfied with your English education at Meikai? Actually, you shouldn't be satisfied. I'll tell you why.

For the past two years, I have been teaching TOEIC strategies to first and second year English major students. As I taught English to Meikai students and talked with the teacher training students, I often listened to stories of similar frustrations or struggles. After listening to these students, I realized that the situation needs to be changed, so I will be their voice. Today,



I'm going to talk about three things that need to be done to improve the English education system for the students at Meikai. I will tell you about what I've learned as a peer teacher, what I've discovered by surveying first and second year students, and what I've heard from third and fourth year students. Based on this information, I'm going to propose some simple solutions that will lead to a much stronger English program and I'm going to challenge you to make a difference.

Through peer teaching, I have seen the importance of the connection between upperclassmen and underclassmen. However, I've come to realize that connections are rare because there are few opportunities outside of circles and clubs to create

relationships with upperclassmen here at Meikai. So, I asked 55 underclassmen whether they want to be connected with upperclassmen and I also asked them whether they know how to study English or not. Almost 60% of first and second year students said they don't know how to study English. I also asked them if they want upperclassmen to teach them how to study English, and about 75% of first and second year students said they wanted this kind of opportunity. So, what about the upperclassmen? What do they think about teaching English to underclassmen? Since we have students who are in the teacher training program, I made a questionnaire for upperclassmen who are taking the course to which 17 students responded. I asked them if they want to teach English to underclassmen and about 50% of them said yes. I also made a question for those who said no to this. It said if you can get money by teaching English to underclassmen as a part time job, would you do it? The percentage of the people who want to teach English increased. Surprisingly, 75% of upperclassmen answered that they would study harder if they could get more wages based on their TOEIC scores or other English qualifications.

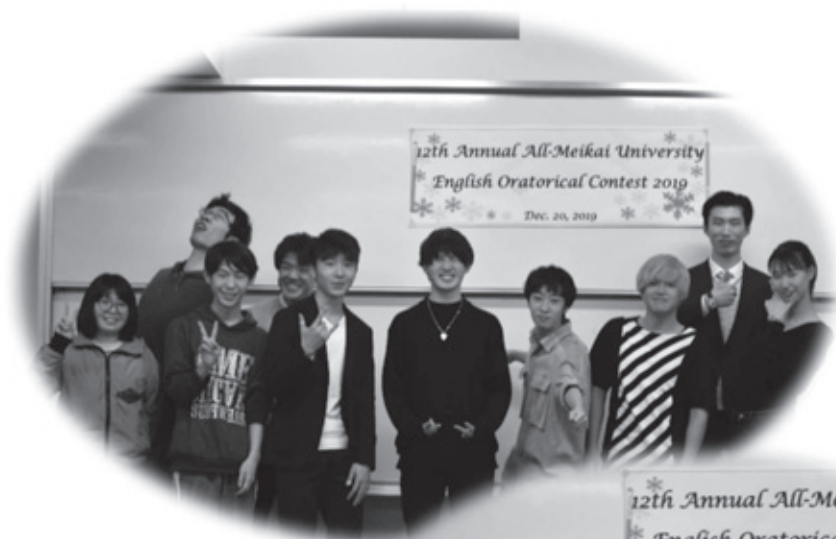
Furthermore, I found by surveying students in every year that not all students are motivated to study for their own interests. I asked underclassmen if there were rewards such as scholarships, opportunities to study abroad, opportunities to go on internships, or to get credits, would you study English more? Most of them, of course, said yes to this question. Actually, there have been similar rewards in the past, but they were decided based on GPA, not specific English abilities or qualifications such as English exams. To make it fair, why don't we decide who gets suitable rewards based on students getting higher scores on TOEIC or Eiken? Then, every student will get an equal chance to obtain their rewards. Some students in higher classes use more difficult books and discuss more difficult topics compared to the lower classes. However, as students in higher classes are evaluated based on tougher criteria than students in lower classes, it's more difficult to get better grades. If everything regarding getting such rewards is fair for everyone, I believe more students will be motivated to study English and create opportunities to make it happen.

There is one more thing I would like to say. I asked upperclassmen if they think they speak less English after they became upperclassmen. The result show that about 80% of students think that they have fewer opportunities to speak English in their third and fourth years. Rephrasing their remarks, they say they no longer have classes in which students speak English such as Integrated English. Some say that there are no mandatory classes that students have to take for speaking English and they don't speak English even in elective English classes because it's all about linguistics and literature. I also asked them if there were classes such as Integrated English, would they take Integrated-English-like classes even if they're electives? And about 86% said

that they would. This proves that the curriculum for English department should be reconsidered. It doesn't meet students' demands. We need English skills to work in a global marketplace and it's ridiculous that most students peak in their English by their second year.

Do you know how much you pay for your tuition for four years here at Meikai? It's approximately four million yen over four years. You are all customers at Meikai. All of you have the right to expect a certain quality of education. But one person cannot do it alone. You need to join your voices together to demand the changes that you want...like changing Meikai's English education system or creating relationships with upperclassmen. This isn't about me since I'm graduating in March. Rather, this is about you, and I am passing the torch on to you to accomplish what I wasn't able to accomplish in my four years here at Meikai. I want you to experience what I couldn't experience. Before I end my speech, I would like to give this quote to you from the American rapper, Eminem. "If you had one shot, one opportunity to seize everything you have ever wanted, one moment, would you capture it? Or just let it slip?" It's all up to you.

Thank you for listening.



英米語学科同窓会 明英の活動報告

同窓会で学びの機会を

明英代表 川部 翔

おかげさまで、英米語学科の同窓会組織「明英」は今年で15年目を迎えます。明英では、卒業生や在学生の方々に対して、様々な活動を行っています。以下に、今年度の活動を振り返りながら、明英の事業を紹介させていただきます。

毎年、親睦パーティーを行っています。昨年7月のパーティーは、舞浜イクスピアリのロティズハウスにて行いました。100名以上が集まり、学生時代の思い出話で盛り上がりました。東京ディズニーリゾートのペアチケットも当たる抽選会は毎年盛り上がります。在学生の皆様も、卒業後にご案内しますので、ぜひお友達を誘ってご参加ください。

12月には、毎年クリスマスカードを各会員にお届けしています。クリスマスカードには、英語の名言を載せています。2月には、多くの会員の方に対して様々な学びを提供する目的で、教育セミナーを実施しています。今年度は樋口倫子先生より、「well-beingのためのレジリエンス」というテーマでお話いただく予定です。

これからも、会員の皆さんの興味や関心があることについて、学びを深められるように企画・運営をしてみたいです。在学生の皆様とも交流できるようなイベントも検討しております。今後とも、会員の皆様の心が温まり、学びを得られる同窓会組織を目指してみたいです。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。



卒業生からの手紙

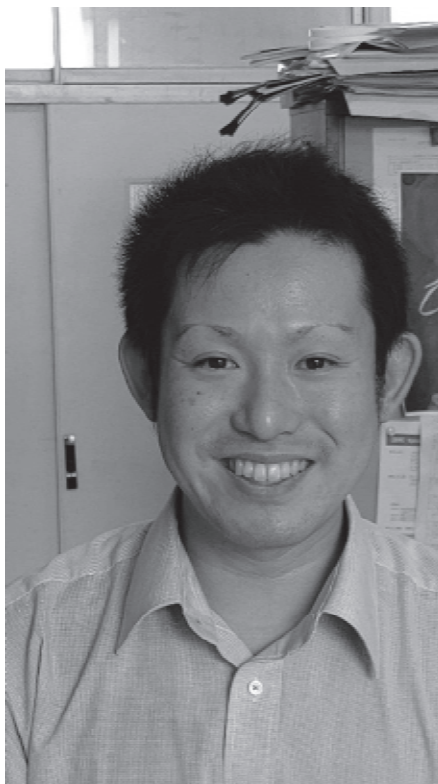
近況報告

2007年3月卒業 滝口 圭太

2007年3月に明海大学を卒業し、英語教師として13年目を迎えました。現在の勤務校は1792年藩校として創設された千葉県内で最も伝統のある高校です。現在、スーパーグローバルハイスクール（SGH）やスーパーサイエンススクール（SSH）の指定を受け「日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成」を目標とし、論理的思考力や課題解決能力、英語の発信型コミュニケーション能力を養うため、SGHのプログラムを通して、生徒自らがグローバルな課題を見だし、解決策について研究し、プレゼンテーションを行うなどの活動を行っています。

特に、オーストラリア、オランダ、シンガポール、ドイツ、イギリスの5カ国で生徒の海外研修を実施し、自らの課題研究について現地の高校や大学ではプレゼンテーションを行います。さらに研究を充実させるためのディスカッションも行っています。もちろん、使用言語は英語です。普段の授業においても、教員が知識を与えるだけでなくディベートなどの言語活動を取り入れ、生徒が主体的となり、コミュニケーションを通して深く学ぶ機会を充実するよう他の先生方と協力して取り組んでいます。

私自身について振り返ると、大学に入学して初めてプレゼンテーションや英語でディスカッションをしたことを思い出します。私が高校生として経験した授業の多くは、教科書を読んで和訳をする活動がほとんどでした。大学に入り、「自分の考え」など問題を解くのは異なり、正解のない内容について他の人に伝えるという機会を得たような気がします。中でも印象に残っているのは、春休みに学内で行われた集中セミナーに参加した時のことです。ペアでテーマを決め、パワーポイントでプレゼンするという内容でした。



当時、学内には多くの喫煙所が残っており、積極的に禁煙化を進めるべきというトピックを選びました。どのような構成にするか、悩みながらも完成したスライドを担当の先生に見せると「根拠がない。主張をするためには evidence が必要だ。」と激しいダメ出しを受け、「自分の考えを羅列しているだけでは、意見の主張はできない。」ということを経験して初めて体験しました。初めて英語を海外で使用する体験をしたのも大学生のときでした。UCLA 海外派遣に参加し、現地の授業だけでなく、研修中に知り合った友達と買い物や食事に出かけ、充実した毎日を過ごしたことを思い出します。英語によって、自分の世界が広がったと実感しました。

今、英語教師として生徒に伝えていることの多くを明海大学で学んだように思います。知識はもちろんのこと、出会った仲間や様々な体験も私にとっての宝物です。学生の皆さんも、出会った仲間とともに多くのことを学び、今後も益々活躍されますことを期待しております。

最後に、英米語学科同窓会「明英」では、卒業後も仲間との交流を大切にできるよう、様々なイベントを行っております。皆様といつか同窓会イベントでお会いできることを楽しみにしております。



編集後記

『英米ジャーナル 2019年度号』をお届けします。本年度から、卒業する4年生にもこのジャーナルを渡すことになり、タイトなスケジュールで原稿をお寄せいただいた皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

本ジャーナルは、明海大学・英米語学科の1年間の学科活動報告集となりますが、今一度読み直すと、学生たちの成長の記録でもあることがよくわかります。「専門領域研究講座」や「卒業研究」では、各教員の熱心な指導の下で専門分野における学びを深く追究しています。海外英語研修、GSM フィールドワークでは外国語や異文化と格闘しながら、多くの学生が新たな視点を得ることが出来ました。「複言語・複文化教育センター（通称：MPPEC）」での多様なイベントやアクティビティを通して、日頃の学修の成果を教員だけでなく学生同士も確認でき、さらなる高みを目指す学生も多くいます。

今後も学生の皆さんが、様々なチャンスを活かして大きな成長を遂げることが出来ますように。そして来年度の『英米ジャーナル』にもその成長の記録が刻まれることを切に望みます。

2019年度『英米ジャーナル』編集委員会 中邑啓子、内藤貴子、前田隆子

2020年3月発行

明海大学 外国語学部 英米語学科

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

明海大学浦安キャンパス

TEL 047-355-5111（代表）

印刷：佐藤印刷

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-10-2



(2019 年春・CQU 英語研修)